

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
防災公園グループ	（指定管理者名）公益財団法人 東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。
指定期間	
H28.4.1 ～ R8.3.31（10年間）	

2 施設名	3 収支(単位:千円)				
東白鬚公園、木場公園、砧公園、駒沢 オリンピック公園、代々木公園、善福 寺川緑地、和田堀公園、汐入公園、城 北中央公園、光が丘公園、舎人公園、 水元公園、篠崎公園、葛西臨海公園、 武蔵野中央公園、府中の森公園、武蔵 野の森公園、小金井公園、東村山中央 公園、東大和南公園、秋留台公園		令和7年度	令和6年度	令和5年度	公園別支出額
	項目	金額	金額	金額	東白鬚公園：97,316、城北中央公園：194,107、武蔵野の森公園：124,119 木場公園：290,347、光が丘公園：369,990、小金井公園：464,877 砧公園：218,370、舎人公園：494,469、東村山中央公園：103,564 駒沢オリンピック公園：252,497、水元公園：514,316 東大和南公園：95,636 代々木公園：381,650、篠崎公園：202,665、秋留台公園：90,050 善福寺川緑地：193,048、葛西臨海公園：444,588 和田堀公園：140,520、武蔵野中央公園：83,989 汐入公園：90,948、府中の森公園：155,812
	収入 計	5,003,042	4,403,789	4,211,834	
	内 訳	指定管理料	5,003,042	4,403,789	4,211,834
		利用料金	0	0	0
		その他収入	0	0	0
	支出 計	5,002,878	4,454,080	4,180,460	
	収支差	164	△50,291	31,374	

4 管理運営の概要
防災グループ全公園で防災士・防災介助士の資格取得を推進し、有資格者を配置。地域連携防災訓練や防災イベントで要配慮者対応プログラムを実施し、対応力向上を図った。あわせてインクルーシブ防災の視点を取り入れた訓練を展開した。この視点を活かして、企業・学校・特別支援学級との新しい防災訓練を行った。さらに保育園・幼稚園、高齢者施設、病院など周辺施設と連携した訓練を重ね、地域住民からの信頼に応える公園としての機能を強化した。

5 管理状況
①維持管理

・樹木定期点検に加え、緊急樹木点検を実施した。グループ全体で延べ75,314本の樹木を点検し、必要に応じて樹木診断を行った。診断結果に基づき剪定・伐採・支柱設置などの処置を早期に行うことで、安全な公園管理に貢献した。

・東白鬚公園では、段階的な土壌改良や剪定によりシンボルツリー「ハンカチノキ」を再生させ、景観向上を図った。

・砧公園ではサイクリングコースの不陸補修や路面標示を工夫し、快適な利用に加えて高速ランナーや自転車抑制につなげた。

・駒沢オリンピック公園では、全サクラ129本を樹木診断し、結果を基に38本を伐採することで、桜花期前に安全を確保した。

・善福寺川緑地は、樹木診断を129本、内64本のサクラ保護（支柱設置等）や伐採を実施。住民説明やHPで取組を周知し、伐採の問い合わせはゼロとなった。

・和田堀公園は親水広場（調節池）の新規開園に向けた運営マニュアル作成やポンプの点検保守により安らぎの場を提供した。

・城北中央公園は合同総合防災訓練会場の競技場芝生損傷について、除草や不陸整正で早期に原状回復し、利便性向上に貢献した。

・光が丘公園ではアンケートにより利用者ニーズを把握。トイレヘフィッティングボードを設置し、感謝の声をいただいた。

・リニューアルした舎人公園のじゃぶじゃぶ池の更なる利便性向上に向け、着地部の塗装など維持管理に努めた。

・水元公園においてオニバスの保護育成を通年で実施。外来種駆除等を通じ、自生地を支える持続的な保全体制を確立した。

・木場公園ではクビアカツヤカミキリ防除の取り組みを継続させ、注意喚起ポスターを掲示するなどし、外来種防除の取組を広く情報発信した。

・武蔵野の森公園では、寄贈元のうち5府県と交渉、調整し、「ふるさとの丘」の解説板4箇所の補修と欠損した静岡県溶岩石1箇所の更新を行い、パークビュースポットの景観を回復した。

・府中の森公園では、噴水周辺的美観向上のため、計画的なベンチ補修を行い、日中の来園者やライトアップイベントの参加者に快適な環境を提供した。

②利用者への対応
・ドッグラン登録のWeb化を継続し、手続きの簡略化と利用者の利便性を維持した。 <p>・スポーツ施設の予約については、操作に不慣れな利用者にも丁寧に対応し、円滑な利用を支援した。</p> <p>・砧公園は職員による早朝パトロールを実施。ファミリーパーク内での犬のノーリード防止等のマナー向上につなげた。</p> <p>・駒沢オリンピック公園は警察等と連携したスケボーマナーアップキャンペーンを実施。園外滑走の苦情軽減に貢献した。</p> <p>・善福寺川緑地は野球場利用者の喫煙やラジオ体操の騒音についてマナー遵守を粘り強く呼びかけ、解決につなげた。</p> <p>・和田堀公園は親水広場の新規開園前に危険箇所の立入禁止やスケボー利用防止のサインを掲示し、安全な利用に寄与した。</p> <p>・城北中央公園はサンドテーブルやパネル遊具を新設し、誰もが一緒に遊べる機会をつくった。</p> <p>・光が丘公園は、警察と連携した自転車マナーアップや大型イベント時の主催者向けのマニュアルを作成。事故防止に寄与した。</p> <p>・汐入公園では花火大会開催時、警察との連携で滞留防止策や大階段を閉鎖し、事故ゼロで来園者の安全を確保した。</p> <p>・篠崎公園の55箇所ある飛地管理では、年間約100件を超える剪定や落葉清掃等の要望に迅速に対応し、信頼関係を築いた。</p> <p>・木場公園では窓口にコミュニケーションボードの設置や幼児用便座の設置等、利用者ニーズに応えた。</p> <p>・武蔵野中央公園、府中の森公園、武蔵野の森公園、東大和南公園では、戦後80年の節目にあたり「4つの公園をめぐる歴史ガイドツアー」として、自由参加のクイズラリーと事前申込み制の歴史専門家による歴史ガイドを開催した。職員の創意工夫による広報、ノベルティ開発等で、前年度比2.3倍の555人（うち全公園コンプリートは78人）に参加いただいた。</p> <p>・府中の森公園では、イメージキャラクターにちなんで毎月27日を「にじーなの日」として地域連携によるイベントを定期開催し、誰もが遊べる児童遊具広場「にじいろ広場」の普及啓発、利用促進を図った。</p> <p>・武蔵野の森公園は開園25周年を迎え、緑と水の市民カレッジの協力による歴史講座を開催し、年間を通じてコミュニケーションボードに来園者のメッセージを募るなど、地域に育まれ、愛される公園づくりを前進させた。</p>

6 利用者アンケート結果					
実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート					
施設名	総合 満足度	植栽 管理	施設の 清潔さ	安全 ・安心	職員の 応対
東白鬚公園	4.6	4.4	4.0	4.2	4.4
木場公園	4.7	4.6	4.3	4.4	4.6
砧公園	4.9	4.9	4.5	4.9	4.9
駒沢オリンピック公園	4.6	4.5	4.0	4.4	4.6
代々木公園	4.7	4.7	4.4	4.6	4.8
善福寺川緑地	4.7	4.7	4.6	4.5	4.8
和田堀公園	4.7	4.7	4.6	4.6	4.8
汐入公園	4.6	4.6	4.3	4.4	4.5
城北中央公園	4.8	5.0	4.9	4.8	4.8
光が丘公園	4.7	4.5	4.0	4.5	4.5
舎人公園	4.6	4.3	4.2	4.3	4.6
水元公園	4.6	4.7	4.4	4.4	4.4
篠崎公園	4.5	4.5	4.2	4.3	4.5
葛西臨海公園	4.9	4.9	4.7	4.9	4.9
武蔵野中央公園	4.8	4.7	4.5	4.7	4.7
府中の森公園	4.8	4.7	4.4	4.7	4.6
武蔵野の森公園	4.8	4.6	4.6	4.7	4.8
小金井公園	4.8	4.7	4.3	4.7	4.7
東村山中央公園	4.5	4.6	4.4	4.5	4.3
東大和南公園	4.7	4.8	4.6	4.7	4.7
秋留台公園	4.7	4.7	4.6	4.8	4.7
7 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
東白鬚公園	270,874	パークミーティングを起点に、新たな防災イベントの開催やバイオネストを制作するなど、地域連携の場を拡充した。			
木場公園	2,149,477	企業や地域と連携したKIBAフェスタや防災フェスタを開催。新たに年2回のスポーツイベント実施し公園利用の促進に努めた。			
砧公園	1,859,313	インクルーシブイベントの年3回開催及びプレイワーカーを計25回配置。ユニバーサルデザイン遊具の利用促進につなげた。			
駒沢オリンピック公園	4,146,802	「駒沢ファンタジア」では最寄り駅でのPRによる広報を拡充。新規含む47団体が参加し、地域の活性化に貢献した。			
代々木公園	7,102,635	世界陸上、デフリンピック開催に伴う公園地利用による主催団体等との調整や来園者への案内等を適切におこなった。			
善福寺川緑地	1,726,684	公園連絡協議会で参加を呼びかけ、イベント「秋のこうえんふえすた」を初開催。参加者は前年比2.4倍。			
和田堀公園	1,262,925	夏季に第二競技場の夜間利用を拡大。警備員を配置し、夜間の利用促進と適切な利用調整を行った。			
汐入公園	1,685,241	パークミーティングを契機に、近隣保育園等と季節行事による交流イベントを開始。新たな来園機会の創出につなげた。			
城北中央公園	1,460,341	消防署との地域連携防災訓練と合わせて防災普及啓発イベント「防災パークin城北中央公園」を開催。幅広い年齢層の来場につなげた。			
光が丘公園	1,675,687	「公園フェスタ」やプレイパークイベント「ひかりんびっく」を開催。3世代交流できるプログラムで地域の子育て応援に寄与した。			
舎人公園	3,713,113	企業・地域との連携を拡充した防災フェスタやスポーツイベントを開催し、公園の認知向上と利用促進につなげた。			
水元公園	2,974,893	開園60周年を契機に、有料ハナショウブガイドツアーや記念グッズの制作・配布を実施し、公園の魅力向上を図った。			
篠崎公園	748,240	子どもが主役のふれあいフェスティバルや季節のワークショップを開催し、公園利用の促進と愛着の醸成につなげた。			
葛西臨海公園	3,854,474	近隣11町会等と防災訓練や小学校での防災授業を実施し、「防災フェス&アウトドア」を初開催するなど、防災普及に取り組んだ。			
武蔵野中央公園	441,517	アプリ「歴史ARガイド」による歴史の普及啓発や、都の石神井川上流調節池工事に伴う対応を適切に行い、利用しやすい公園環境を提供した。			
府中の森公園	695,602	地域の子育て支援を目的とした会議に毎月参加し、年間を通じて「にじいろ広場」や噴水広場を活用した地域連携イベントを開催した。			
武蔵野の森公園	569,722	のびのび親子館のイベントと花壇づくりを組み合わせた「絵本と歌の庭」の取組を継続実施し、生物多様性環境の普及啓発を推進した。			
小金井公園	2,553,184	パークミーティングの意見を踏まえ、イベント「夏祭り」や「水遊び」を初開催し、公園を基点とした豊かな地域づくりに寄与した。			
東村山中央公園	592,119	地域連携による防災フェスタ「みんなdeあそ防災」を開催し、20のプログラムに1,000人を超える来場者があり、防災公園の役割を普及啓発した。			
東大和南公園	1,033,161	未就学児を対象とした近隣保育園の出前保育「リトルキッズコミュニティ」を前年度の5回から6回へ拡大し、地域の子育て支援に協力した。			
秋留台公園	863,549	拝島駅や東京観光情報センター多摩の広報協力、発生材を活用した来場者プレゼント等により、春と秋の「ローズフェスタ」の来場者増を実現した。			
計	41,379,553				



東白鬚公園

地域連携を牽引し、
コミュニティを支える公園



所在地：墨田区／開園面積：10.3ha

パークミーティングを起点に、多様な主体との協働が加速

防災
事業

NEW 次世代育成の生物多様性学習の実施

4年目を迎えた子ども花壇に加え、保育園と連携した新たな環境教育を開始。腐葉土づくりやバイオネスト制作、鳥の巣箱設置および見学会を実施した。園児が土や生きもののつながりを「見て・触れて」学ぶ体験の場を創出するとともに、ボランティアと協働することで本取組が継続的に行われ、生物多様性への理解にもつながった。



園児とともにバイオネストを制作

NEW 体験型防災イベント「あそ防災」の開催

親子世代を対象とした体験型防災イベント「あそ防災」を、子育て支援団体や町会等と連携して立上げ、2回開催。パークミーティングの声を反映し「自助」をテーマとした簡易トイレづくりなど、遊びながら防災を学ぶ場を創出。この取組の地域連携が評価され、区との今後の防災連携に発展するきっかけとなった。



地元飲食店のオーナーが簡易トイレの作り方を説明

NEW 多世代・多主体で広げる防災フェスタを開催

行政・企業・地域団体と連携し、防災フェスタを開催。車椅子利用者補助体験などのインクルーシブ防災を新規導入し、協働で防災を学ぶ機会を創出。若い世代の主体的参画により世代間連携を広げ、地域防災力の向上につなげた。



防災介助士の資格を持つ職員がレクチャー

NEW 防災団地と連携した住民主体の訓練の実施

防災団地を中心に行政・消防・警察・学校が連携し地域の防災課題を共有。自治会役員主導で園内防災トイレの運用訓練を実施し、住民自ら防災施設を立ち上げる「共助」を実践。公園を防災拠点として活用する具体的な連携の第一歩となった。



地域住民が主体的に参加

NEW 親子で楽しむ凧づくり・凧あげ体験を実施

「公園で思いきり体を動かしたい」という意見を踏まえ、野球場を活用した親子向けイベント「凧あげ体験」を初開催。広いフィールドを走り回る体験に、95%が「非常に満足」と回答。親子の来園機会拡大と公園ならではの交流の場を創出。



公園オリジナルロゴの凧を制作



公園を核に多世代交流と地域資源の活用が進展



多世代と地域資源をつなぐ「公園フェスタ」の開催

遊び、防災、緑をテーマに多様なプログラムを展開。高齢者が指南役を務める遊び体験や防災学習に加え、**たもんじ交流農園との新たな連携により、地域の伝統野菜「寺島なす」を紹介**。世代を超えた関わりと地域資源への関心を育んだ。



たもんじ交流農園による「寺島なす」の紹介

誰もが参加できる「ボッチャ体験会」の開催

月2回のペースで継続開催し、ボッチャのルールや技術を学べる機会を提供。高齢者や障害者を含む多様な参加者が同じルールで楽しみ、世代を超えた関わりを創出した。**継続的な取組により、健康意識の向上と公園の活用機会拡大**につながった。



小さな子どもでも遊べると人気



公園がつなぐ企業参加型ボランティア活動

公園が主体となり関係機関と調整を行い、**区内企業による園内清掃・除草のボランティア活動を実現**。公園初の企業CSR活動であり、公園を介した企業参加の仕組みを構築した。今後の継続的な企業参画につながるモデルケースとなった。



(株)合同酒精の新入社員による活動

継続的な調整と現場対応により園内の不適正利用を改善



炊き出し実施に伴う不適正利用への対応

隅田川テラスで実施されていた炊き出しが、テラスの工事に伴い公園近隣へ移行し、園内に待機列の発生やゴミのポイ捨て、喫煙、放置駐輪などの不適正利用が確認された。一般利用に支障が生じたため、**職員・警備員による年間約100回の巡回と声掛けを継続的に実施**するとともに、主催団体との協議を重ね、ルール遵守と清掃徹底を要請。あわせて警察等関係機関と情報共有を行い段階的な改善を図った結果、**主催団体自ら清掃に取り組む体制が定着し、園内の待機列やポイ捨て等は解消。職員の粘り強い対応により、適正な利用環境を回復・維持した。**



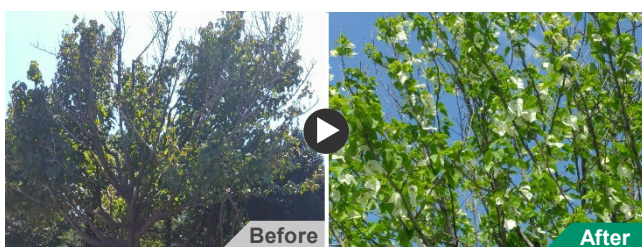
主催団体による清掃活動

利用者ニーズに応える環境整備で景観と利便性が向上



シンボルツリー再生で景観魅力を向上

シンボルツリーであるハンカチノキを約1年にわたり段階的な土壌改良や剪定等を実施した結果、**樹勢が回復し再生**した。今年は花数も増加し、鑑賞や撮影を目的とした来園者の再訪が見られるなど、**公園の魅力向上と来園促進につながった**。また、職員が樹木再生の知識・技術を習得し、維持管理に活かせる経験を蓄積した。

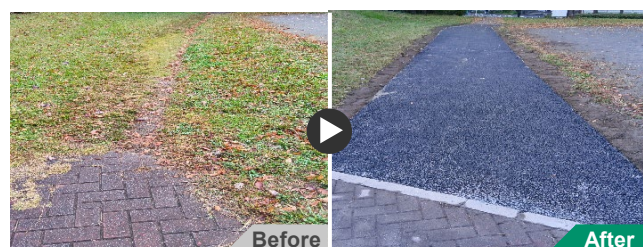


樹勢回復に伴い、花の咲き方がより豊かに



歩行しやすい園内導線の改善

パークミーティングで自治会、町会、保育園から寄せられた要望を受け、多目的広場脇園路の不陸整備を実施（1.8m×20m）。雨天時や雑草繁茂期に歩行しづらかった園路が、安全で快適な動線へと改善した。整備後は**散歩のしやすさを評価する声が多く寄せられ、日常利用の利便性向上**につながった。



歩きやすい導線に改善



木場公園

地域の方々と共に
賑わいの場を創出する木場公園



所在地：江東区／開園面積：23.8ha

健康増進イベントを年2回開催へ拡大。地域の魅力発信に寄与

NEW スポーツイベント！「みんなのラン&健康ウォーキングフェスタ」の開催

誰でも気軽に楽しめる「みんなのラン & 健康ウォーキングフェスタ」では、**一般財団法人東京マラソン財団と初めて連携し**、質の高い健康増進イベントを**6月と12月の年2回**開催した。親子でも参加できる「かけっこ教室」・赤ちゃんと一緒に走る「バギーでゆるラン」、「健康ウォーキング教室」、観光も兼ね公園を帰着とした「観光街RUN」の4つコンテンツをご用意。園内のKIBACO（東急コミュニティー）や地元ベーカリーにも協力いただき、スポーツの楽しみ方、健康増進、地域の魅力を192人の方に伝えた。



正しいフォームを学びます



デュオ(Duo)バギーでのランニング



参加賞は地元のベーカリーのパン

地域とつながり、木場の魅力発信をさらに強化

Update 地域と連携し「KIBA FESTA2025」広報力アップ！ 幅広い層への周知を実現

地域の様々な団体や企業と繋がりを深め、公園から地域の魅力や価値、伝統文化を発信することを目的としたイベントを11月に開催。地域と連携により、広報力アップさせ、**今年初となる、地域5つの児童館と区立公園にチラシの配布し、ラジオ局(FMえどがわ)にも出演**。X（旧Twitter）でのイベント関連投稿は計50,000インプレッション獲得した。今年度は2日間開催し、コンテンツは15から23に増加。延べ8,900人が参加した。



地元企業の出展



Coffeeドリップワークショップ

NEW 子どもたちと創る 「アートガーランド」

子どもたちとともに KIBAFESTA で飾るガーランドを制作し、身近にアートに触れる魅力や価値を伝えた。完成した作品を装飾することで、**地域への愛着を育み、イベントへの参加意欲向上**につなげた。



アートでつながる地域の輪



防災フェスタ2025と、出前子育て防災講座の開催

防災
事業



参加者3,000人！防災意識向上に貢献した防災フェスタ

深川消防署・深川警察署に加え、**江東区、自衛隊・花王株式会社・トヨタモビリティ・ハウス食品の計5団体**が新規に参加し12月に防災フェスタを実施した。**地域一体となった防災普及啓発**の取り組みをPRするとともに、江東区との連携強化により、区内外への情報発信が広く行き届いた結果、来場者は3,000人に達し、前年比130%となった。



はしご車試乗体験は大人気



電気自動車から給電し防災食を温め、試食



出前子育て防災講座

児童館と連携し、防災講座「もしも」に慌てない！防災おしゃべり会を初めて開催した。防災備蓄の工夫等紹介し、**子育て家庭向け防災普及啓発につなげた。**



防災講座に参加する親子

外来種被害に備え防除、情報発信を進め生物多様性を保全

NEW

外来種の正しい情報を広く発信！

江東区では2021年からクビアカツヤカミキリ（特定外来生物）が確認されており公園内でも警戒を強化していたが、サクラ定期点検時に幼虫のフラスを発見したため関係各所へ報告し、ただちに防除を実施した。また、ボランティア、子どもたちへ外来種の正しい情報を普及し、**地元中学生とともに来園者へむけたクビアカツヤカミキリの注意喚起ポスターを掲示するなど、外来種防除の取り組みを広く情報発信した。**



発生個所に針金を指し駆除作業



ボランティアに向けた普及啓発と注意喚起



地元中学生によるポスター掲示

参加型コミュニティが、公園の学びと使いやすさを高める原動力に

NEW

植物の成長発見「自然を学ぶ会」の開催

子どもたちが江戸野菜の栽培を通じて、小さな自然、大きな発見に出会い、**身近にある自然環境を学ぶことができた。**



小松菜、カブ等の特徴や成長をじっくり観察

NEW

みんなの手で「公園美化」活動

季節イベントに合わせた自由参加の清掃で、集めた落ち葉を装飾に活用し、**楽しみながら公園美化につなげた。**



楽しみながら清掃活動

NEW

もっとやさしい公園へ「子ども便座」の設置

パークミーティングでの声を形にし、子ども用便座をトイレに設置。子育て世代が**利用しやすく、より親しみやすい公園**となった。



子どもにやさしい快適な環境づくり



砧公園

すべてのこどもと
文化を育てる公園



所在地：世田谷区／開園面積：39.17ha

地域コミュニティや自治体との連携によるインクルーシブマインドの向上

Update インクルーシブイベントでユニバーサルデザイン遊具の利用促進

インクルーシブ（多様な背景を持つ方に配慮する）イベントを2回開催（計約1,000人参加：うち、障害を持つ当事者約50人）。世田谷区内で障害児支援活動を行う団体による協力で、だれもが一緒に遊び・ワークショップに参加できる環境をつくった。地元のアーティストや世田谷区障害福祉部との初連携によるアートワークショップで青空の下、のびのびと絵画を楽しむとともに、参加者同士が遊具で遊ぶ姿が見られ、「みんなのひろば」の普及啓発につなげた。子ども同士で遊具を譲り合う姿も見られ、インクルーシブマインドを地域に広げることに大きく貢献した。



大勢の参加者が
アートワークショップを楽しんだ



世田谷区と初連携した
「世田谷たがいちがいプロジェクト」



地元アーティストの協力を得た
「みんなで作るキヌタノキ」

Update みんなで遊ぶ環境づくり プレイワーカーによる遊具の利用促進

プレイワーカー（計25回配置）による、みんなのひろばでの子どもの見守りや障害を持つ子どもたちと一緒に遊ぶ環境づくりを推進した。初対面の子どもたちもプレイワーカーのサポートにより直ぐに仲良くなり、保護者同士の交流や大人にもインクルーシブな広場の存在意義を共有してもらう機会をつくった。



プレイワーカーによる遊びの見守り

Update 美術館との連携 「こんな公園あったらいいなコンクール」

世田谷美術館および長谷川町子美術館の協力により、公園をテーマにした第9回目となる絵画コンクールを3月に開催。300点以上の応募があり、世田谷美術館にて展示会を行った。来場者から「子どもの個性あふれる絵に触れて元気が出ました」「こんな公園に出かけてみたい！」など、イベントへの称賛の声を多数いただいた。



子どもたちが思い思い描いた作品が勢ぞろい





発災時の連絡体制構築および防災に関する普及啓発

防災
事業

NEW 東京都現地機動班訓練

東京都総合防災部による現地機動班訓練を9月に実施した。当日は都職員と公園協会職員が合同で防災訓練を行い**発災時の連携・協力体制を強化**した。自衛隊のヘリコプターによる野球場への離着陸訓練等、近隣住民にも防災公園としての役割をアピールできた。



無線通信の組立て訓練



ヘリコプター離発着訓練

Update 防災フェスタ

近隣住民の防災意識を高めるため、世田谷区と共催で防災フェスタを9月に開催。約2,500人が参加。参加者が発災時の備蓄やインクルーシブ防災を学ぶなど、**地域の防災力向上に寄与**した。イベントは認知されてきており、参加者は**昨年度と比較して増加**した。



ロープの結び方講習



AED体験

施設の適正利用指導

Update 職員による早朝パトロール

ファミリーパーク内での犬の散歩や園内でのノーリード散歩を対象に巡回を実施。**公園ルールを周知し、利用者間のトラブルの防止**に努めた。**夏季の7～9月は計11回**（年25回）行い、**マナーアップ向上**につなげた。長年の取組により、ファミリーパークでの犬の利用はなくなり、利用者が気持ちよく過ごせる環境を提供できた。



2019年8月



2026年1月

地道な指導によりファミリーパークでの犬の利用はなくなった

公園特性を活かした自主事業イベント

Update クロスカントリーイベント「キヌクロ」

クロスカントリーの聖地として、ランナーに愛されている砧公園でのクロスカントリーイベントを9月に開催（参加者延べ250人）。猛暑の中での開催となったが氷水やミスト等を準備し、熱中症対策をとっての開催となった。幅広い年齢層が参加し、スポーツの振興、**健康増進のための公園利用を啓発**することができた。



未就学児から高齢者まで一緒に参加・応援できる人気のスポーツイベント

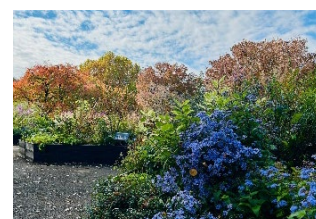
都事業へのサポート

Update 東京パークガーデンアワード（TPGA）

砧公園の特徴を生かした花壇制作を行い、新たなビュースポットとして利用者の目を愉しませた。車椅子でも鑑賞や手入れが容易にできる**意匠の提案やイベントを全面サポート**し、みんなのひろばと隣接したインクルーシブな空間が広がり、**公園の魅力向上**につなげた。



子どもと一緒に花壇を鑑賞



新たなビュースポットに寄与

都の政策と連動した事業の実施

Update 利用者目線の維持管理

公園内のバリアフリー化工事の進捗に合わせて、サイクリングコース内の路面標識の更新や園路の不陸補修を20箇所行った。都事業と連携することにより、**多様な利用者が快適に利用できる環境を整備**することにより**サービスの向上**を図った。



Before



After

高速ランナーや自転車のスピードの抑制につながった



駒沢オリンピック公園

地域や人をつなぐ
すべての中心となる公園へ



所在地：世田谷区、目黒区／開園面積：41.35ha

地域コミュニティとの連携による地域価値の向上につながる取組

Update 「駒沢ファンタジア2025」

開園記念日イベントを11月に開催。公園連絡協議会で地域の活性化を意見交換し、従来の参加者に加え、目黒区事業者を中心に新規32団体が参加した。計55のプログラムを通じて、地域のつながりや魅力を再発見するきっかけを提供できた。ブース数を20から25箇所、マルシェ店舗数を16から22店へ拡充。また、駅ビル再開発に合わせた情報発信も奏功し（**来場者数は約11,000人**）、公園と地域コミュニティとが連携することで、地域の活性化を推進した。



マスコットキャラが参加



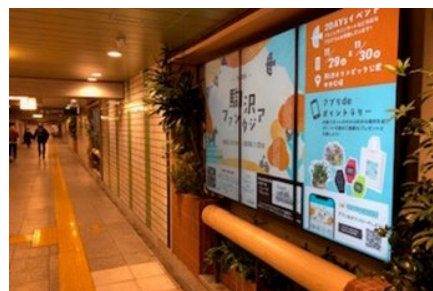
地域ゆかりのマルシェ



公園連絡協議会で参加団体や広報を検討



目黒区事業者による木工



東急電鉄「駒沢大学駅」のデジタルサイネージ

公園の新しい魅力を地域と協力して発信！

Update 「2,500個」の参加型キャンドルアート

記念塔のライティングと近隣保育園児によるメッセージキャンドルを加えたキャンドルアートを作製。親子や近隣大学生も点灯に参加する等、**会場一体となったイベントを開催**、温かな灯りに包まれる幻想的な雰囲気を創出し**夜間利用を促進**した。（参加者約800人）



近隣保育園児のメッセージキャンドル



親子でキャンドルアップ！

Update ステージイベントで地域の魅力アップ

駒澤大学、世田谷図書館に加え東京農業大学が初出演し、ステージ内容が充実。近隣の大学や施設と連携し、ステージでの演奏や演武で来場者は大いに盛り上がった。公園が中心となることで、**公園の魅力向上と地域の方々の愛着を深める**ことができた。



歌や音楽で会場を演出



専門家の園芸講座



健康増進に向けた取組、誰もが使いやすい公園づくり

Update スケートボードマナー向上による苦情軽減

SS広場で活動する愛好家団体を主とする講師陣により、スケートボードマナーアップを目的としたビギナー教室を10月、12月に開催。スケート技術と合わせて利用ルールを呼びかけ、参加者同士で注意しあう姿も見られた。また、**公園内外で初めて警察署等とキャンペーンの実施や出入口に飛び出し防止バーを設置**。園内外滑走を抑え、苦情軽減に貢献した。



マンツーマンによる指導（年2回）



マナーアップキャンペーン（年2回）

都事業への協力

NEW PR動画による啓発

東京都スポーツ推進本部による「オールウェルカムTOKYO」事業への手話付き公園紹介動画作成に協力し、**世界へ動画配信**した。また、園地利用では、調整会議等を20回実施。車両搬入や要介助生徒の昇降場など**安全管理を徹底の上調整**した。



公園紹介手話付き動画（日本語、英語）

地域との連携、防災に関する普及啓発

防災
事業

Update 地域連携防災訓練

深沢まちづくりセンター、消防署、近隣施設や町会等の9団体による地域連携防災訓練を11月に実施。新たに公益還元施設Mr.FARMERと連携し、発災時の運用や備蓄倉庫の活用等、**公園にある施設を生かして地域の防災対応力向上に寄与**した。



参加者120人

発災時における運用や備蓄倉庫について説明

Update 目黒区避難誘導訓練

目黒区、東急電鉄等関係機関と避難誘導訓練を12月に実施。自由が丘駅前から公園まで約2kmを移動する避難誘導訓練を実施。また**新たに防災介助士による車いす介助訓練を行い、自助・共助の意識を醸成**した。



参加者30人

防災介助士による車いす介助の実演訓練

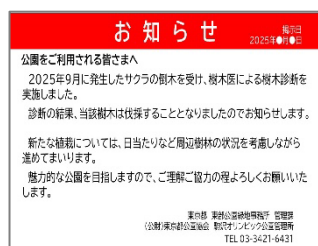
安心安全の公園づくり

Update 樹木診断・伐採による安全の確保

枯れ枝の落下事故や倒木などを受け、公園内全樹木（2,202本）の緊急点検と樹木医による診断を行った。特にサクラは129本を診断し、伐採が必要な樹木（38本）は事前に十分な告知を行ったうえで実施することで、**利用者への理解に努め、苦情もなく桜花期前に安心・安全、な環境を確保**した。



園内の樹木を点検



掲示案内

共同作業による効果的な維持管理

Update パークビュー「大刈込」の景観維持

経年によって株物等の肥大化や実生木繁茂が顕著となってきたため、3年計画の最終年として大規模作業を実施した。景観を乱す株物や低木の樹形の整枝や樹高の切り戻し・間引きを23種、5,000㎡実施。併せて石垣の除草を徹底するなど**将来的な景観を見据えた均整のとれた美しい景観を復元**した。



繁茂した雑草と不鮮明な株



3カ年に及び復元



代々木公園

多彩な活動が交差する
都心のライブラリーパーク



所在地：渋谷区／開園面積：54.4ha

地域連携強化による防災普及啓発活動の推進

防災
事業

NEW 渋谷消防少年団・消防署・町会との連携

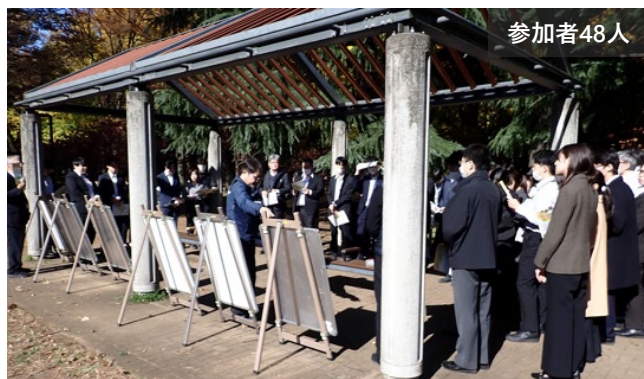
渋谷消防少年団12人を対象に渋谷消防署、代々木五丁目町会と協働し、公園の「かまどベンチ」を使用した防災訓練を8月に実施。**消防署と町会との協力体制を積み上げてきた結果**、消防署側から少年団の訓練を公園で出来ないかとの相談があり、本訓練の計画をたて、**初めての実施**につながった。



「かまどベンチ」で火をおこす渋谷少年団の子もたち

NEW 渋谷税務署との避難訓練

発災時に避難場所として指定されている代々木公園で、防災施設について学びたいとの要望を受け、内容を調整しながら11月に**初実施**。渋谷税務署から徒歩で公園に避難、安全を確認しながら園内を歩き、防災パーゴラなど施設や発災時の公園の役割などをレクチャー。**有意義な訓練になったと感謝の声**をいただいた。



公園職員から避難場所の役割、各種防災施設についてレクチャー

Update 総務局総合防災部との連携

東京都総務局総合防災部と協働し、現地機動班の活動訓練を11月に実施。東京都参集職員に対して、防災施設の稼働方法や公園職員の役割等をレクチャーすることで、**発災時両者が連携できる**ように備えた。



救出救助機関の車両進入口開放訓練

NEW 防火水槽を使用した震災時遠距離送水訓練

大規模地震発生、消火栓が破断により使用不可能になったことを想定し、防火水槽を使用した送水訓練を11月に実施。**公園としても初の試み**であったが、防火水槽からホースを約550m延ばすことで消火能力が維持されることが検証できた。



ホースを延長、水圧が下がるので可燃ポンプも使用

Update 消防署と連携 起震車＆水消火器体験

昨年度から取り組んでいる起震車や水消火器を活用した防災普及啓発。今年度は**回数を増やし、原宿駅や渋谷駅に近い場所**で実施することで、**外国人観光客や渋谷や原宿に遊びに来ていた若い方たちの参加**に繋がった。



水消火器体験

防災パネル展示

昨年度 8回416人が 9回460人に増加



公園の魅力を発信するイベント開催

Update 「ジャズフェスティバル」「あそび万博」同時開催による相乗効果

オリンピック記念宿舎前が工事により利用できないため「ジャズフェスティバル」を中央広場に移し「あそび万博」と11月に同時開催とした。キッチンカーを用意するなど賑やかな雰囲気作りをおこない、**ジャズは600人(前年比150%)が参加。同時開催の「あそび万博」も相乗効果で1,500人(前年比185%)が参加**、イベントに訪れた多くの方に公園での楽しい一時を過ごしていただいた。



参加者1,500人



参加者600人

手つなぎ鬼をする子どもたち

ワシントンハイツ時代のナンバーを演奏

Update ボランティア団体の協力による自然とのふれあいイベントの拡充

ボランティア団体の協力により、公園の自然素材を使用した「ポプリ作り」「ブーケ作り」「バスソルトワークショップ」「バラのコサージュ作り」「クリスマスリース講座」「どんぐり工作」等、計**11回のワークショップ**を5月から12月の間に開催。親子での参加等、総勢211人が参加し、自然への親しみを持つ機会を提供。**自然豊かな公園を知ってもらうなど魅力発信に繋がった。**



ハーブのブーケ作り



バラのコサージュ作り



どんぐり工作

都からの要請への適切な対応による来園者への周知強化

NEW 「世界陸上」「デフリンピック」開催に伴う対応

9月世界陸上開催に伴う、B地区の立入禁止エリアについて、園内掲示やHP、X(旧Twitter)掲載で周知。来園者からの要望へは、**速やかに世界陸上財団と調整**を行い、立入禁止エリアをわかりやすく囲う等対応した。また期間中の公的イベントについて、搬入搬出経路の変更や関係者車両台数の調整を行い、**安全で適切な公園管理**を行った。11月デフリンピック開催に伴う駐車場の利用不可では、多くの問い合わせに対し、より丁寧な対応を行うことで利用者のご理解を得られた。



世界陸上開催に伴う規制



デフリンピック開催に伴う規制

新たに開園した神南一丁目地区との連携事業

NEW 関係主体とのパークミーティング

神南一丁目地区と**月1回の定例会**で情報共有を行い、**パークミーティングを共催で実施**することで連携を強化。渋谷区、警察、消防と防災をテーマに意見交換。3月実施の防災ライフフェスタについて内容を協議しながら、協力体制を構築した。



3月実施予定の防災ライフフェスタの内容を協議

Update パークミーティングの意見を反映した「防災ライフ・フェスタ」

B地区ケヤキ並木と神南一丁目地区の**2エリアを会場**とした「防災ライフフェスタ」を3月に開催。協力団体拡充、**パークミーティングでの意見を反映し「ペット防災」をコンテンツに加えることで、総勢約7,250人(前年比145%)の方に参加**いただいた。



参加者約7,250人

多くの方に学ぶ機会を提供

NEW モルック選手権「第1回代々木カップ」

A地区で「モルック選手権」、神南一丁目地区で「体験会」を**連携事業**として2月に開催。日本モルック協会にも協力いただき、45チームと体験会含めて256人が参加。**老若男女が楽しみながら交流できる機会を提供した。**



参加者256人

中央広場で開催したモルック選手権



善福寺川緑地

サクラ並木と心やすらぐ 緑の回廊



所在地：杉並区／開園面積：18.08ha

創意工夫による効果的な維持管理 ～地域の理解を深めたサクラの健全育成～

Update 適切な維持管理の周知・丁寧な住民への説明

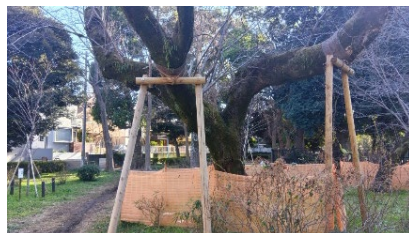
サクラの維持管理について**樹木専門の有識者を交え、近隣住民に説明**を行った。また、ホームページに維持管理方法、掲示板に伐採告知をすることで住民の樹木に対する不安を解消し、理解と協力を得られることで**伐採に対する苦情はゼロ**となった。



有識者を交えた住民への現地説明

NEW サクラの保護に向けた適切な対応

樹木医診断を129本実施。内保護が必要な木は、安全ネット、支柱設置（46本）、伐採（14本）、軽減剪定（4本）を予定より早期に完了し、樹勢維持と景観を保全した。これらの取組により、**サクラの保全と安全な公園利用の両立**につなげた。



支柱設置

Update 次世代にサクラ並木をつなぐ取組

サクラ並木を次世代につなぐため、専門家の指導を仰ぎ、サクラの補植（3本）を計画的に実施した。パークビューの維持に来園者からは**「サクラの成長を楽しみにしています。頑張ってください」**と激励の声をいただいた。



サクラの補植

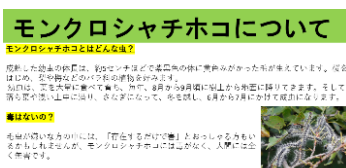
「公園連絡協議会」における利用ニーズ把握と地域連携イベントの拡充

Update 公園連絡協議会（パークミーティング）

地域の連携強化を目的に、杉並第二小学校PTA、成田育成員会、おとうさんクラブ等が参加し、公園連絡協議会を実施。カラスや毛虫の対策について、公園の取組の理解促進を図り、安心の声をいただいた。また、**会議をきっかけに地元イベントへの出張展示や公園イベントへの協力・参加につなげ**、地域連携を強化した。



公園管理（イベントや害虫対策等）の取組についてSC長から説明



NEW 「秋のこうえんふえすた」で連携団体拡充

公園連絡協議会で呼びかけ、「杉並第二小学校ウィンドバンド」「むかしあそびの会」の**2団体が新規で参加**した。例年の工作教室を拡充し、「秋のこうえんふえすた」を11月に初開催、前年の2.4倍の120人が参加した。また、「すぎなみ園芸療法クラブ」と**初連携の協働**で、発生材を活用した**「X'masクラフト」イベントも開催**した。



ウィンドバンドによる演奏



季節感を感じるX'masクラフト



防災に関する普及啓発

防災
事業

Update 地域と連携した防災の取組により、感謝の声

地域コミュニティ「桜の城防災会」と連携し、地域連携防災訓練を実施した。100円ショップで販売されているグッズ等を活用した「100円防災」の展示や、障害者等の**防災弱者の視点での説明**等「自助」「共助」の重要性について解説。「**都民の声**」にて公園における防災の取組に感謝の言葉が寄せられた。



AED体験



100円防災の展示

NEW 「防災忍者」で子どもの安全避難

近隣の保育園4園と初連携の地域連携防災訓練を実施した。園児がわかりやすいように発災時の行動を様々な動物のポーズに置き換えた忍術に例え、新たに作成したパネルで園児へ説明した。**楽しみながら避難行動を実践**することで「おうちでもやりたい」と園児たちの防災への理解を深め、**家庭への防災意識の波及につながった。**



イラストを使用したパネルで説明



カルガモ親子のように並んで避難

利用者・地域住民への理解促進

Update 喫煙マナー、騒音等への適正な利用指導

園内での喫煙や、公園地の利用時の音量に対して、他の利用者や近隣からご意見が寄せられていた。喫煙は窓口での受付時に喫煙マナーの遵守を粘り強く呼びかけ、巡回時に指導を徹底、音量はレベル計測を行い、**利用者双方に対して、互いへの配慮を求め解決につなげた。**



広場の様子

都工事への協力

Update 地域住民や団体への調整

善福寺川上流地下調節池事業で、公園管理者として**工事に関する住民対応や問合の一次窓口を担った。**また園内の動線変更や利用制限に対して、樹木保護や植栽への影響を最小限に抑えるための調整を実施、利用者の安全確保と環境保全の両立を図った。



第三建設事務所との打ち合わせ

地域ニーズに応えた親子交流プログラム

Update スポーツ教室イベント

親子でスポーツに親しむ機会を提供するため、株式会社読売巨人軍(ジャイアンツアカデミー)と連携し、キャッチボール教室を実施。「息子とキャッチボールをすることで、息子の成長を感じることができて嬉しかった」等、**多くの参加者から感謝の言葉をいただいた。**



コーチからアドバイスをもらい、バッティングも練習。親子で成果を実感。



地域猫活動への適正指導スタート

Update 新規ボランティアへのコーディネート

『飼い主のいないネコ対策』として、団体へ餌やり場所の限定(30箇所→17箇所)、不妊去勢、糞尿清掃、後片付け等を指導した。また、動物行政(杉並区)も交え活動報告をさせることで、**環境改善(苦情ゼロ件)や適正な管理運営につなげた。**



ボランティア・動物行政との連携により猫の餌やりマナーが向上





和田堀公園

生物多様性の保全と活用 区部の貴重な自然を守る公園



所在地：杉並区／開園面積：26.05ha

パークミーティングの意見を反映した新規イベントの開催 ～カブトムシ観察会～

NEW 公園連絡協議会

和田堀公園の自然環境と活性化をテーマに関係団体等が参加する**公園連絡協議会を初めて実施**。これまではお互いの活動を報告し合う機会がなかったため、公園を中心とした各団体同士の連携強化が図られ、公園の生物多様性の活動に大きく寄与することができた。各団体の思いを受け、観察会イベント開催へつなげた。



参加団体からイベントの提案



活動報告（観察会）

NEW 参加団体の思いを実現

公園連絡協議会でボランティアから出た「和田堀公園の自然を活かしたイベントをしたい」という意見を基に、「カブトムシの幼虫観察会」を**10月に初めて開催した**。「カブトムシの幼虫」を知らない子どももあり、保護者からは「実際に自然の中で見て、触って学ぶことが出来て貴重な体験ができてよかった」等、感謝の声をいただいた。



幼虫を初めて間近で観察



幼虫発見！

体験型事業「和田堀まるとミュージアム」による地域環境意識の醸成と定着

Update 和田堀サイエンス

外来種対策、浅場づくり等の取組をオリジナル動画で紹介。在来種保全のため、外来種対策や海堀の重要性等と伝えることで、**生態系の多様性、種や遺伝子の保全について理解を深めることができた**。



動画は後日にSNSでも発信（8,500回 IMP）

Update スモールアクアリウム

池とその周辺で捕獲された11科12種の生き物の生体展示し、職員や専門家により解説した。図鑑にはない生き物の動きや形を間近で観察することで、**子どもの生き物に対する興味を示すきっかけをつくった**。



池や周辺に生息する動植物を間近で観察

Update 浅場でビオトープ

埋土種子から繁殖させたコウホネを子どもたちの手により池に植え戻した。「いっぱい育つといいね」「水がきれいになりますように」など感想をいただき、**子どもたちの生態系の理解に資することができた**。



子どもたちがコウホネを植え付け



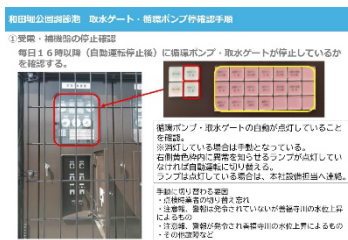
親水広場（調節池）の新規開園による公園利用の促進

NEW 管理運営マニュアル作成

調節池の稼働に際し、第三建設事務所および杉並区と**安全対策や施設運用に関する情報共有と協議を重ね**、都立公園として安全・安心・快適な施設維持管理実現を目的として、**運営マニュアルを作成**した。これにより、全職員が施設を安全に運用することが可能となり、都民に安らぎの場を提供することができた。



関係者との確認



職員用マニュアル

NEW 開園に向けた調整と点検保守等の準備

安全のためのサイン設置や保守点検を行った。開園当日は安全に配慮して仮設物の迅速な撤去を行い、スムーズな開園となった。開園初日から近隣保育園や介護施設等の散歩コースとして賑わった。調整池周辺の騒音対策等のマナーアップを周知徹底し、「**きれいな場所を安心して利用できる。**」と感謝の声をいただいた。



仮設物の撤去



園児で賑わう

防災に関する普及啓発

防災
事業

Update 近隣施設と連携したインクルーシブ防災

障害者自立支援施設と地域連携防災訓練を実施。視覚的に分かりやすいイラストのカードやクイズを活用した「見てわかる防災」で施設から公園へ避難する訓練を実施。「**施設利用者に合わせて工夫した解説をありがとうございました**」と感謝の声をいただいた。



イラストで解説



防災メダル授与

Update 杉並区防災フェスタ連携

「ペットボトルらんたん工作」「100均防災」「災害用トイレ体験」「ともすけ防災マップ」等、「クイック防災」をテーマに家族で簡単に防災を学べるコンテンツを実施。参加者からは「帰りがらもっと詳しく地図作ってみる」等**防災意識の高まりを感じる**ことができた。



ペットボトルランタン



ともすけ防災マップ

関係機関と連携した犬のマナーアップ

Update 犬のしつけ教室とペット防災

杉並区保健所生活衛生課と連携し、「犬のしつけ方教室」を開催した。散歩マナー向上プログラム、**ペット防災の内容も取り入れた**。発災時飼い主とペットとの向き合い方を改めて考える契機となり、**防災意識の普及啓発にもつながった**。



犬へのしつけ方教室

第二競技場の夜間利用の適正化

Update 夜間利用者へのニーズ対応と利用指導

昨年度利用再開した第二競技場の利用時間拡大ニーズに対応した。近隣から音の苦情が想定されるため、利用者に声の音量に注意するよう利用指導を行うため、警備員を配置、**利用に対する苦情はゼロであった**。



夜間もランナーで賑わう



汐入公園

地域交流と賑わいを生み出す
活気ある公園



所在地：荒川区／開園面積：12.9ha

近隣保育園との交流を拡充

NEW 季節行事を通じた子どもとのふれあい

パークミーティングで「子どもたちと公園との交流イベントを増やしてほしい」という声を受け、これまで取り組んできた子ども花壇での交流に加え、にじの森保育園と連携したハロウィンやクリスマスなど季節ごとに交流する機会を拡充。行事を通じてふれあいを重ねることで、公園への親しみを醸成させるとともに、来園や日常利用の促進につなげた。勤労感謝の日には子どもたちからプレゼントされる関係性を築くことができた。**保育園との継続的な関係構築を通じて、子ども世代が公園に関わるきっかけづくりとなった。**



「こども花壇」植え付け体験



「ハロウィン」お菓子配り



サンタクロースに扮した職員



手作りのペン立てを受け取る

地域とともに進める取組が、公園の魅力発信と協働の輪を広げる

NEW 隅田川フェスタで進めるシダレザクラ再生

開園当初からあるシダレザクラの再生を目的に記念植樹祭を実施。地域の方とともに土盛りを行い、主体的な参加を促した。あわせて、お絵かき・ぬり絵やハーブワークショップ、アーティストライブなど多彩なプログラムも展開し、**公園への愛着醸成と地域連携・協働の基盤づくりにつなげた。**



隅田川フェスタ 来場者
● 5月 約2,000人

シダレザクラの再生を願って地域の方と土盛り

Update 地域と公園をつなぐ「汐入まつり」の開催

町会や企業、行政機関と連携し、地域の方が披露するステージやキッチンカー、新企画として園内のハーブを活用したハーブ販売やワークショップなど多彩な催しを展開。**ハーブに触れる体験を通じて公園の魅力を広く発信するとともに、ボランティアの新規獲得や地域とのつながり強化や持続的なにぎわいづくりに貢献した。**



汐入まつり 来場者
● 8月 約6,500人

ボランティアがハーブの特性について丁寧に説明



利用実態を踏まえた安全対策の改善で、約4.6万人来場でも事故ゼロを実現

Update 花火大会における安全確保の取組

隅田川花火大会において、多数の観覧者が集中する導線や昨年の利用状況を踏まえ、観覧者の安全確保と利便性向上を目的とした安全管理対策を実施した。運用にあたっては、区や警察と事前に協議を重ね、課題の整理や対応方針の調整を行った上で、**カラーコーン増設による歩行路・来園者導線の明確化、バイク駐輪場の新設、警察と連携した段階的な導線開放、多言語による園内アナウンスなど、実効性の高い改善を実施した。**その結果、**約4.6万人が観覧する状況下においても、園内外で大きな混乱や事故は発生せず、観覧者が集中する時間帯においても安全で円滑な利用環境を維持**することができた。事前の調整から当日の誘導・警備までを一体的に対応したことが事故防止につながり、大規模イベント時における適正利用推進の実績として評価できる取組となった。



カラーコーンの増設や職員の自主警備により安全を確保

身近な樹木を活かした自然学習の推進で、参加層拡大と学びの定着を実現

NEW 汐入Treeアドベンチャーラリーの開催

新たに「汐入Treeアドベンチャーラリー」を企画し、サービスセンター周辺の樹木30種を題材とした自然学習プログラムを展開した。樹名板は近隣中学生の協力により作成・設置し、学びを実践につなげる取組とした。**近隣の小学生や保護者、保育園年長児、福祉施設利用者へと参加が広がり、多様な利用者層の来園促進**につながった。身近な自然に触れる体験へのニーズに応えるとともに、**地域児童が継続的に関われる学習コンテンツとしての定着に手応えを得た。**



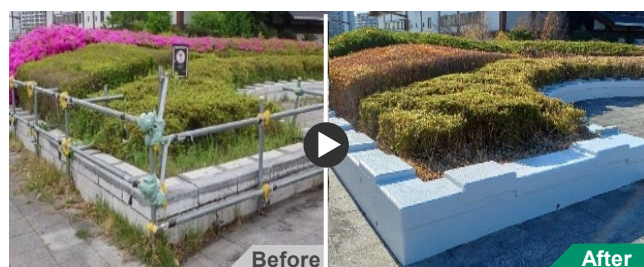
アドベンチャーラリー 参加者
●11月～ 約100人

自身で制作した樹名板を取付け樹木を楽しみ学ぶ子ども達

利用者ニーズに応える取組が、安全性と満足度の向上につながる

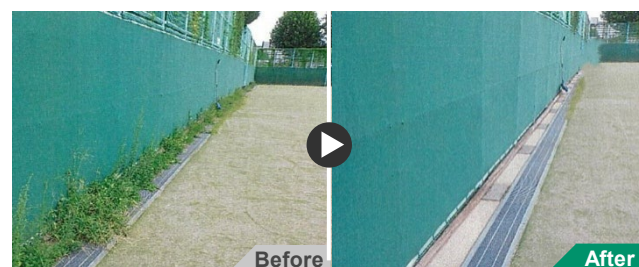
NEW 展望広場ベンチの機能価値と景観向上

植栽樹一体型緑石ベンチでは、過去にスケートボードによる不適正利用への対策として単管パイプを設置し、一定の抑止効果を得ていた。一方で景観への影響が大きく、今回は景観に配慮した構造的な改善として段差を設ける方法を採用した。ベンチ本来の利用を確保しつつ不適正利用を抑制する工夫とし、展望広場の眺望を損なわず、**安全性と利便性を両立した利用環境の改善**につながった。



Update 利用頻度を踏まえた環境整備

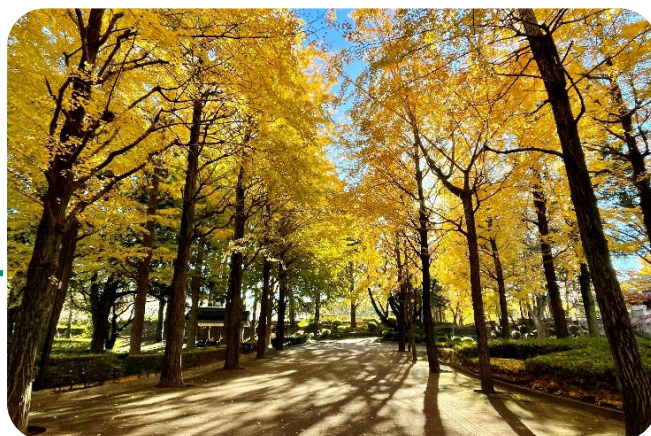
利用頻度の高いテニスコート周辺の側溝付近を整備し、防草対策を実施。**蚊などの発生抑制に効果を発揮するとともに、雑草繁茂の防止により景観の改善**にもつなげた。この取組により、利用環境の衛生性・快適性が向上。近隣保育園からは、防虫効果により子ども達が安心して外遊びできるとの声をいただくなど、高い評価を得た。





城北中央公園

いつまでも愛される
みんなで育てる公園



所在地：板橋区、練馬区／開園面積：25.89ha

発災時の体制構築および防災に関する普及啓発（地域連携防災訓練）

防災
事業

NEW 東京都現地機動班活動訓練

公園協会の参集者が参加し、東京都現地機動班活動訓練を1月に実施した。大規模救出救助活動拠点として、防災施設の役割や、防災トイレの設営、調節池の機能等、公園職員が普段の訓練を活かして東京都職員へ説明した。東京都職員の**防災への知識習熟や発災時の体制を構築する有意義な訓練となった。**



拠点立上げの流れを確認



マンホール型トイレの設営訓練

NEW 「インクルーシブ防災」の出張授業

全国初の都市防災技術科を新設した都立北豊島工科高等学校に防災介助士による出張授業を提案、9月に実施した。車いす、アイマスク等を使用し、高齢者目線を持った取組等を説明。**若い世代への防災普及啓発と地域の災害対応力向上**につなげた。実践的なインクルーシブ防災を学べたことに感謝の声をいただいた。



アイマスクで緑内障体験指導



車椅子の段差操作を指導

防災に関する普及啓発

防災
事業

Update 練馬区総合水防訓練

練馬区危機管理室区民防災課と石神井消防署、各関係団体と連携した地域連携防災訓練を5月に実施。（参加者190人）**関係機関との連携、防災力強化につながった。**気軽に参加できる野外防災トイレ体験コーナーを設置し職員が解説した。雨天ではあったが幅広い年齢層が参加、防災公園の役割を普及啓発した。



放水体験



防災トイレ体験

NEW 防災パークIN城北中央公園

練馬消防署と共催して防災の普及啓発イベントも兼ねた地域連携防災訓練を12月に実施。（参加者300人）練馬区、警察署、自衛隊や各関係団体の協力のもと、水消火器訓練、ペット防災、マンホールトイレ体験等のコンテンツを設けて**幅広い層の来場者へ防災について楽しみながら学ぶ機会を提供した。**



都内に1台のVR防災体験車



防災クイズで備蓄の必要性をPR



東京都・板橋区合同総合防災訓練後の都事業への協力

Update 陸上競技場再開への利用調整と現状復旧への貢献

昨年度に合同総合防災訓練の会場となった陸上競技場は芝生地が損傷、総合防災部により復旧・養生が行われた。しかし今年度に入っても**芝が回復せず雑草の繁茂が見られ**、閉鎖期間の延長が余儀なくされたことで利用者からは苦情が寄せられた。現状回復に向け、東部公園緑地事務所、総合防災部と協議を図り、8月中は除草や不陸整正等の作業を積極的に協力した。**サービスセンター、本社総出で対応**にあたることで、**閉鎖延長期間を最小限に抑えて秋の運動会シーズンまでには安全に開放し、利用者への利便性向上に貢献した。**



3,000本の繁茂・木質化した雑草



真夏日に人海戦術で除草・草刈



整正、金属探知機で鉄杭回収



開放後、利用者から感謝の声

オートムフェスタ、古代フェスティバルの参加につなげた公園連絡協議会

Update 公園連絡協議会による地域との連携強化

警察署、消防署、板橋・練馬区の町会、ボランティア等関係団体、近隣公共施設等、代表者24人が出席する公園連絡協議会を開催した。「防災」「生物多様性」「都市の風格や景観形成」「レクリエーション」についての取組を報告し、**都立公園の役割や活動への理解を深めることができた。**意見交換では出席者から今後の公園運営の活性化につながる建設的な意見や提案もいただき、貴重な会となり、その後のイベント参加・協力につながった。



公園の取組をスライドで説明



「公園に親しみが持てた」との声

都民協働で生物多様性の普及啓発

Update ボランティアとの協働による自然観察会

ボランティア団体と連携し、子どもたちと昆虫探しや生き物解説等、自然観察会を8月に実施。また観察会に合わせてバイオネストを設置。子どもたちへ**東京グリーンビズの「活かす」取組**として、子どもたちに公園の落葉循環を解説し理解を得た。参加者からは「**子どもと一緒に知識を学んで楽しい体験ができた。**」との声が寄せられた。



バットランドで昆虫探し



落葉循環を解説後、記念撮影

SDGsを推進した遊具広場の安全管理

NEW インクルーシブ遊具の設置

誰でも遊べる児童遊具整備の一環として、サンドテーブルの遊具を設置した。子どもたちからの人気は高く、初めて会った子どもたちも一緒に遊ぶ光景も見られ、遊び場の価値を高めることができた。また、混雑する遊具の前に**パネル遊具を設置することで待ち時間でも親子や友だちと遊べる機会をつくった。**



サンドテーブル



パネル遊具



光が丘公園

地域密着、協力団体と一緒に
「地元の公園」をつくる



所在地：練馬区、板橋区／開園面積：60.78ha

公園ならではの“体験型”有料ガイドツアーの開催

NEW 職員のアイデア満載！公園でつくる夏の思い出「夜の公園ツアー」

夏休みの子どもたちが、公園で思い出に残る体験ができる**有料ガイドツアー**を初めて企画、**8月に実施**した。（参加者10組17人）豊かな自然と広い空間の特性を活かした「公園の仕事体験」「昆虫観察」「キャンプファイヤー」「花火」の4つのコンテンツを企画。仕事体験では子ども用制服を着用して作業車の乗車や、のこぎりを使った丸太切りを体験。夜ならではのセミの羽化観察では「羽化の大変さを知れた」と公園の生物多様性への理解を深めた。ミニキャンプファイヤー、花火、かき氷など夏ならではの楽しみタイムは、家族の思い出の1日となり、地域の子育て支援に貢献した。アンケート回答の結果は、「**大変満足**」が**7割**、「**満足**」が**3割**と回答。参加者全員から「また開催してほしい」との声をいただいた。これまでの**職員の経験・アイデアが生かされたイベント**となり、職員と参加者の関係が深められる**“思い出”**となった。



写真は缶バッジにしてお土産に！



セミの羽化の瞬間は感動



マシュマロ焼いてみよう



家族や友だちと花火

地域・関係団体が協力した恒例イベント

Update 公園フェスタに約2,000人来場で地域活性

「公園フェスタ」を11月23、24日の2日間開催。両日で**約2,000人が来場**した。光が丘警察、消防署、練馬区立四季の香ローズガーデン等や**新たに光が丘福祉専門学校、光が丘図書館、SSC光が丘等の計9団体が参加**し、来園者を楽しませた。警察、消防の車両、ふれあい動物園等の人気ブースに加え、公園ブースでの「のこぎり体験」、「フォトスポット」等で、公園への愛着を醸成した。



のこぎり体験



フォトスポットコーナー

Update プレーパークイベント「ひかりんぴっく」

ボランティアやプレーパーク団体と連携し、大人も子どもも気軽に参加でき、広い原っぱでのびのび体を動かす競技を揃えたプレーパークイベント「ひかりんぴっく」を1月に開催した。（参加者約750人）丸太引き、丸太渡り、紙ヒコーキ飛ばし、ケンケンパ、輪投げ等のバラエティに富んだ遊びコーナーを用意。**3世代で交流できるプログラムにより、家族全員が楽しめる子育て応援のイベント**となった。



「ケン、ケン、パ」



輪投げ



利用者が安心して利用できる環境づくり

NEW 自転車マナーアップ

利用者からの意見が多い自転車マナーの対策を行った。「交通安全フェスティバル」では光が丘警察と連携し、**職員がクイズを作成して自転車のマナーを啓発**。また、自転車通行量が多い園路に、**ライト点灯等マナーを啓発するサイン**を新設した。



クイズ形式で子どもにもわかりやすくマナーアップ

Update 花火利用の巡回強化

7～9月にかけて花火利用者に対し、職員による巡回強化でマナーアップに努めた。月1回の夜間パトロールに加えて、**18時以降の巡回**を定期的実施。また**受付時に職員が時間をかけて丁寧にルールを説明**することで花火利用への苦情ゼロとなった。



受付で丁寧に利用ルールを説明

NEW イベントの安全対策

年間を通じて大規模イベントが開催されるため、車両動線等を定めた**マニュアルを新規作成**。開催前の打合せと終了後の確認、指摘事項の通達を行うことで**安全な運営管理を徹底した**。イベントによる事故防止が図られ、来園者の安全に寄与した。



ボランティアスタッフによる誘導

地域防災の集大成「防災フェスタ」

防災
事業

NEW 新たな連携先とインクルーシブ防災を実施

光が丘地区の自治会、防災会の連合体である光が丘地区連合協議会（光連協）のほか、近隣団体の協力を得た毎年恒例の「防災フェスタ」を開催。各団体のブースは基本「楽しむ」「体験する」の2つをキーワードにし、ゲーム形式・体験・直接対話を重視した。また、今回**初めてインクルーシブ防災を実施**。日本ケアフィット共有機構から指導員の派遣を依頼し、**災害時の車いすでの介助のポイントを公園協会の防災介助士が参加者に伝え、地域の防災対応力向上に貢献した**。



車いす操作体験



防災読み聞かせ

利用者の視点で施設を改善

NEW アンケートによるフィッシングボード設置

利用者の視点に合った施設改善を目標に、時間・場所・方法を変えてアンケート調査を行った。調査結果をもとにトイレへフィッシングボードを設置した。着替え時だけでなく、赤ちゃんを連れている保護者の荷物置き場やおむつ替えにも利用できることで、**「便利で助かる」との感謝の声をいただいた**。



利用者の声をアンケート



フィッシングボードを新設

Update 樹木の安全対策

倒木や枯れ枝落下事故を受け、**公園内全樹木（約8,000本）の緊急点検と樹木医による診断**を行った。不健全の樹木は直ちに伐採し、安全管理の精度を高めた。また、遊具広場では「イラガ」が大発生したため、遠足等の団体への呼びかけや安全エリアを確保、丁寧に捕殺することで拡大を抑え、利用者の安全に寄与した。



樹木1本ずつ点検



イラガ発生の注意喚起と捕殺



舎人公園

地域の安心安全を支えながら
地域の絆を育む緑のオアシス



所在地：足立区／開園面積：64.9ha

公園を拠点とした連携が実を結び、多世代参加と連携強化で防災力アップ

防災
事業

Update 地域連携防災訓練で実践型学習を実施

警察署や幼稚園、町会と連携し、防災資機材体験や避難誘導訓練、屋上救出デモに加え、初導入のドローンによる要救助者捜索訓練を実施。幼稚園児や保育士も参加し、避難行動や災害対応の重要性を体感。参加者は世代を超えて防災への理解を深めた。地域住民や関係団体との連携強化にも寄与した。また、新たな訓練手法が注目を集め、防災意識向上や次回訓練への期待感の醸成にもつながった。



● 6月 参加人数 約120人

職員が避難誘導訓練の方法について子ども達に説明



ドローンを使用した救出訓練

Update 防災キャンプでの実践力向上と若手育成

消防署職員と連携し、消防少年団約50人を対象に防災訓練を実施。昨年と同規模ながら、災害時に起こる状況や必要な行動を子ども目線で具体的に伝える内容へ発展させた。訓練が進むにつれ主体的に動く姿が増え、「自分にもできることがある」との声が聞かれるなど、災害を自分事として捉える意識の醸成につながった。



子ども達が主体となって防災トイレを組み立てる。

Update 企業・団体と共に進める「防災フェスタ」

地域団体や企業と連携し、防災フェスタを開催。東武バスセントラルに加え、新規連携として損害保険ジャパン(株)やJA東京スマイルの2団体を誘致し、野菜ストックの紹介や簡易食器づくりなど、体験型プログラムやペット防災訓練など多彩な企画を展開。自治体・企業との連携強化や地域全体の防災対応力向上に寄与した。



今年初出展のJA東京スマイル。野菜のストック方法も紹介



企業連携イベントが新規利用者獲得と認知向上を促し、公園の集客力を強化

Update 親子で楽しむキッズ運動会

昨年好評を博した(株)ティップネスとの連携によるキッズ運動会を、内容をさらにブラッシュアップして継続開催した。親子で参加できるリズムダンスなど、観覧者も含め全員が一体となって楽しめる構成とし、参加者は120人を超え、会場は終始大きな盛り上がりを見せた。企業との協働による高い広報効果により、遠方からの参加者も増加し、**公園を初めて訪れる新規利用者の獲得につながった**。イベントを通じて公園の魅力を効果的に発信でき、認知度向上だけでなく、**今後の継続的な利用促進やリピーター創出への好循環を生み出した**。



● 3月 参加人数 約120人

ダンスなどで思い切り体を動かし楽しむ親子連れ

アプリ連携のバイオ体験で、子どもの好奇心と自然理解を育む学びを創出

NEW バイオーム体験イベントの開催

自然観察園周辺の「冒険の丘」エリアにて、足立区およびバイオーム社と連携し「自然観察会～バイオーム体験～」を初開催した。参加者はアプリを活用して動植物を観察・投稿し、ゲーム感覚で公園の自然に親しんだ。事前告知や園内周知の効果により参加者約60人を集め、**子ども達の好奇心を育むとともに、公園の自然資源への理解促進につながった**。



スマホを使って動植物を観察



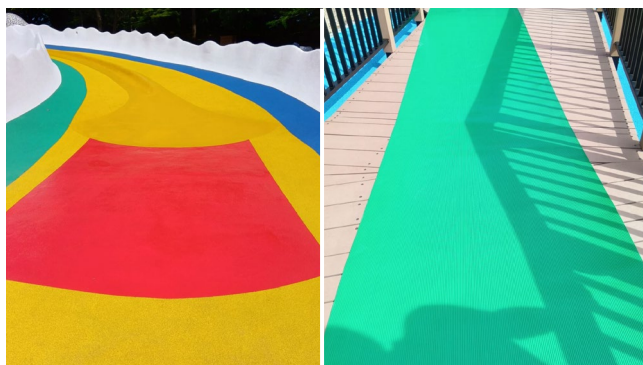
● 9月 参加人数 約60人

発見できた動植物を掲示

利用者の快適性・安全性を高め、来園促進と適正利用につながる取組

NEW 「じゃぶじゃぶ池」リニューアル対応

リニューアルオープンしたじゃぶじゃぶ池の更なる利便性向上を図るため、滑りやすさ調整や着地部への滑り止め設置に加え、暑さをやわらげるマットを新たに設置し、安全かつ快適に遊べる環境を整備。期間中の来場者は約12,000人に達したが、大きな事故もなく子ども達が安心して水遊びを楽しめる場として好評を得るとともに、**親子での来園機会増加や利用者満足度向上に寄与した**。



スライダー着地部に滑り止めと暑さをやわらげるマットを新たに設置

NEW TONERIパトロール隊結成

パークミーティングで共有した課題を契機に、深夜のバイク乗り入れや遊具への不法侵入などの不適正利用対策として、ボランティアや地域住民と連携し「TONERIパトロール隊」を結成。巡回による注意喚起により**迷惑行為を抑制し、適正利用を推進**した。モーニングパトロールでは利用者との対話を通じて利用状況を把握し、巡回場所の見直しを行うなど、安全で安心して利用できる環境づくりに努めた。



職員、ボランティア、地域の方とパトロール開始



水元公園

広大な自然環境とハナショウブの調和が美しい水郷景観



所在地：葛飾区／開園面積：96.6ha

開園60周年にあわせた新規事業による公園の魅力発信

NEW 有料ハナショウブガイドツアー

初の有料制（1,000円／人）によるハナショウブガイドツアーを開催した。完全予約制で午前・午後各20人の定員は募集開始から2日で満席となり、有料プログラムへの高い需要を確認した。ツアーでは、職員が江戸系・肥後系・伊勢系の特徴や花の構造を実物を用いて解説し、専門性を生かした質の高いプログラムを提供。さらに、オリジナル手ぬぐいや図譜の配布により付加価値を高め、**有料ツアーとしての継続実施および今後の事業展開に向けた手応えを得た。**



はなしょうぶ園で職員が解説。参加者からの質問にも丁寧に応対

NEW 職員発案による記念プロモーション

職員が公園を象徴するハナショウブをデザインした、記念グッズ（てぬぐい、図譜、うちわ、ポケットティッシュ等）を制作し、来園者に広く配布することで、**60周年の周知と特別感の演出に貢献した。**来園者の公園への**愛着や親しみを醸成し**、記念の年を盛り上げる取り組みとして高い効果を発揮した。



職員がデザイン・制作した 図譜・手ぬぐい

NEW 小学校と連携した記念モザイクアート

東水元小学校と連携して、児童が公園を題材に描いたカワセミなどの作品をもとにモザイクアートを制作した。応募作品から選定したデザインを、職員・企業・学生が協力して完成させ、多くの来園者の目に触れるハナショウブステージに掲示。公園の自然や魅力を子どもの視点で表現した華やかで迫力ある作品となり、節目の年を印象づける空間を創出した。来園者からは**色彩や着想への評価も寄せられ、公園の魅力発信と来園時の感動体験の創出に寄与した。**



作業場所は学校の体育館を使用



小さな破片の貼付け作業



完成したカワセミのモザイクアート



子ども達とハナショウブステージに掲示



四季を楽しむ多彩な環境教育プログラム

Update

アサザ・オニバス観察

職員がガイドを務め、絶滅危惧ⅠB類のアサザやⅠA類のオニバス自生地を巡る観察ツアーを実施した。今回から身近な距離で観察できるよう観察スポットを設定し、**花や大きな葉の魅力を体感**してもらうことで、興味と関心を高めることができた。



● 7月 参加人数 約30人
オニバスの葉のトゲを間近で観察

Update

親子耕作体験

ボランティアと連携し、今年はプログラムを2回増やした上で、米作りの全工程を段階的に体験できる連続プログラムを実施した。座学と実践を組み合わせることで、**自然の恵みや食の大切さへの理解を深め、食育意識の向上**につなげた。



● 4～11月 参加人数 延べ約300人
参加者の多くは田植えを初めて体験

Update

樹木ガイドツアー

ボランティアと連携して、メタセコイアなど紅葉樹木を中心としたガイドツアーを実施した。少人数制で対話しながら散策し、樹木の特徴や役割を解説したことで、参加者の関心が高まり、**自然環境への理解と水元公園への親しみを深める機会**となった。



● 12月 参加人数 約30人
ボランティアが丁寧に樹木の特徴などを説明

地域防災の輪を拡充

防災
事業

NEW

インクルーシブ防災の推進

東水元小学校との連携をさらに深化させ、**特別支援学級の児童を対象とした防災教室を初開催**した。防災介助士の資格をもつ職員が楽しみながら理解を深められるよう分かりやすい言葉で防災の基本を解説し、ビニール袋で簡単にできるポンチョづくりを実施した。**職員にとっても言葉遣いや、配慮を要する場面での対応の在り方を学ぶ機会となり、実践的な対応力の向上**につながった。



職員が一人一人に丁寧に指導



完成したポンチョを着て記念撮影

希少種の保護・保全

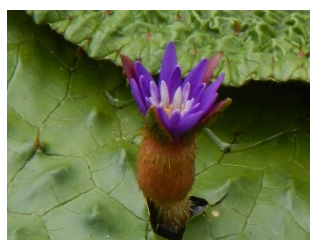
Update

オニバスの保護育成

水辺のさとエリア17・18号池（東京都指定天然記念物）において、絶滅危惧ⅠA類オニバスの保護・育成を年間を通して実施した。月1回の作業部会でボランティアやNPOと協働し植生管理と管理計画を更新。**外来種駆除や展示を通じ、都内唯一の自生地を支える持続的な保全体制を確立**した。



ボランティア団体と協働作業



18号池オニバス開花

NEW

フジバカマの開花と基盤整備

葛飾区内で絶滅が危惧されるフジバカマについて、水元カワセミの里から譲り受けた種子をもとに育成を継続し、今年度は**園内での開花を確認**した。開花株は生育環境を整えた新たなプランターへ移植し、根詰まりの解消と土壌更新により生育の安定化を図った。園内群落形成と次年度以降の自然繁殖につながる確かな成果を得た。



見事に開花したフジバカマ



篠崎公園

地域とともに未来の世代を育む
コミュニティの中心となる公園



所在地：江戸川区／開園面積：31.2ha

地域とともに育む、子どもが主役の公園づくり

Update 学びと体験を広げるフェスティバル

昨年の来場者アンケートで寄せられた意見を踏まえ、体験型・学び要素を強化したふれあいフェスティバルを開催した。**新たに移動プラネタリウムや小学校の学習成果展示を導入するなど内容を充実**させ、子どもから高齢者まで世代を超えた参加を促進した。周辺13校・3町会等への周知により集客につながり、**満足度9割超と高い評価**を得るなど、地域に開かれたイベントとして定着と発展の手応えを得た。



●12月 来場者 約3,000人



篠崎公園上空で見ることができる星座を紹介。子ども達に大人気

NEW アジサイ人気投票

高台化工事に伴い、現在のアジサイ園での催しが今年で一区切りとなることから、地域に親しまれてきたアジサイへの想いを今後の園づくりになかす取組として、アジサイ人気投票を実施した。子ども達や地域の来園者が園内のアジサイを見比べ、気に入った品種に投票することで、公園への**愛着や関心を深める機会**となった。来園者の声を生かし、地域とともに植栽する品種を選ぶ取組として成果を上げた。



●1位 スミダノハナビ ●2位 ヒメアジサイ ●3位 プレジオサ

人気投票で上位に選ばれたアジサイを植栽に活かす

Update 子ども達の笑顔が溢れるワークショップ

園内で採取・加工したアジサイやドングリ、木の実などの自然素材を活用し、有料ワークショップを年間を通して実施した。昨年の参加者の声を踏まえ、内容や素材をブラッシュアップし、解説を加えるなど学び要素を充実させたことで、親子で夢中になって参加する姿が多く見られ、公園全体ににぎわいと笑顔を創出。**高い参加率と満足度を維持し、公園で過ごす楽しさを実感できるイベントとして定着した。**



●6、10月 参加人数 約360人



親子の交流ができる場所としても人気

Update 親子向け野球教室

野球場利用者の多い特性を生かし、(株)読売巨人軍と連携して、親子で気軽に参加できるキャッチボール教室を開催した。継続開催の中で、年中児から参加できる初心者向け構成をより分かりやすく整理し、声かけや進行を工夫することで、親子が安心して取り組める内容へとブラッシュアップ。**満員が続く人気事業として定着し、親子のふれあい**が生まれる、スポーツ公園ならではの**魅力発信**につながった。



●4月 参加人数 60人

初めてでも楽しめる内容が大好評



連携先を拡充したパークミーティングの推進

Update 小学校の参画による 環境学習と将来連携の具現化

自治会や行政、警察・消防に加え、新たに周辺4小学校の校長が参画するパークミーティングを開催した。再来年の開園60周年に向け、同じく開校60周年を迎える小学校と連携し、高台化工事に伴うアジサイ園再構築を題材に、挿し木から育成・植樹までを行う環境学習を提案し、子ども達が関わりながらアジサイ園をつくり上げていく方向性を共有し、**将来を見据えた協力関係の構築に成果**を上げた。



アジサイ園再構築の場所や整備内容について具体的なイメージを共有

公園を拠点とした実践型防災教育の展開

防災
事業

Update 学校・自治会・区民と進める 防災啓発と訓練

近隣小学校と連携し、防災避難訓練を実施。全校児童223人と引率教員が学校から公園までの避難ルートを実際に歩き、危険箇所の確認や防災施設の説明、防災トイレ設置訓練を体験するなど実践的な内容とした。また、自治会と連携した地域防災訓練では、今回初めて車椅子を補助しながら避難誘導体験を実施。さらに江戸川区民まつりでは防災ブースを出展し、防災クイズを通じて体験的に学ぶ機会を提供した。**学校・地域・イベントを通じた実践型の取組により、防災意識の向上と地域防災力の強化につなげた。**



篠崎第五小学校の児童が学校から避難し、防災トイレの組立てを体験



車椅子を補助しながら避難誘導

クイズを通して防災普及啓発

55箇所の飛地の管理方法の改善と迅速な現場対応

Update 年間130件を超える要望に迅速に対応

住宅や公道に近接する区域の安全確保と利用マナーの徹底に注力し、剪定・伐採等の作業と注意喚起・掲示対応を実施した。日常的な巡回を通じて**近隣住民との関係を築き、寄せられた要望にも迅速に対応し、苦情や事故の未然防止に寄与**した。さらに、飛地を常時利用する団体との継続的な調整を通じ、**住民への配慮と利用者の快適性を両立させ、地域に根ざした良好な関係を維持**した。



【37号地】住宅地に隣接するアベリア剪定・ツル採り

NEW 公園調査アプリを活用した維持管理

公園調査アプリに調査項目を新設し、**4年分(153件)の維持管理データを集約・可視化**した。一覧表とマップにより各所の状況や対応履歴を即時に把握できる環境を整備し経験の浅い職員でも迅速かつ的確な対応が可能となった。さらに、毎年発生する案件や植生サイクルに伴う事象を年間計画に組み込むことで、**予防的な維持管理を実現し、効率的で継続性のある飛地管理体制の構築**につなげた。



マップ上にプロットし、過去の対応履歴と今後の対応方針を一目で把握



葛西臨海公園

人と文化と生きものが集い
新たな魅力をつくる公園



所在地：江戸川区／開園面積：81.61ha

「防災フェス&アウトドア」を開催 参加者数 約6,000人

防災
事業

NEW 楽しみながら防災を学ぶ

2月、(株)JR東日本都市開発らと協力し、「防災フェス&アウトドア」を初めて開催。「もしもの時」だけでなく、「遊びの時」にも防災を身近に感じられる、テントの張り立てや火を使わない防災食体験など、アウトドアの楽しさと防災の知識・行動を融合した体験型プログラムを展開した。東京消防庁のVR防災体験車をはじめ、地震や火災の体験を通子どもから大人まで幅広い世代が楽しみながら防災について学べる内容とし、**地域と連携した安心・安全なまちづくりの推進を目指し実施した。**



参加者数約6,000人



東京消防庁のVR防災体験車



災害時にも役立つ防災食クッキング



公園協会オリジナル「ともすけと作る防災マップ」

まちの災害対応力を防災公園から

防災
事業

Update ユニバーサルチャレンジ 防災訓練

障害者福祉施設との防災訓練を10月に実施。多様な主体と連携し、防災活動や災害対応に取り組んだ。繰り返し訓練することの大切さを解説、職員が主導で各訓練を実施。**要配慮者への対応について、職員の対応力を高めることもできた。**



要配慮者へ配慮し避難誘導

Update 地域連携防災訓練

近隣11町会との防災訓練を10月に実施。防災公園の役割や防災施設の機能への理解に繋がり、参加者から「自分の所属する町内会に持ち帰り役立てたい。」「災害時のトイレについて、とても参考になった。」と声をいただいた。



かまどベンチで火焚き訓練

NEW 近隣小学校と防災訓練、出張防災授業

初めての取組として、近隣小学校に出張し、地域の災害ハザードと公園について普及を図った。また、同小学校と、阪神大震災由来の「はるかのひまわり」を播種した花壇づくりや、園内の防災施設を体験する「防災授業」も実施した。



出張防災授業



葛西地区の賑わいは公園から

Update 公園内施設や関係機関とのパークミーティング

公園運営で連携する近隣13団体と、課題の共有や協議のため、パークミーティングを行った。今年度は、園内混雑が予想されるゴールデンウィークや初日の出に加え、暑さ対策での連携が必要となる夏休み前にも実施。協力体制を築いた。



4月開催の様子

Update 地元法人会と協働したパークシネマ

5月、「PARK CINEMA FESTIVAL in 葛西臨海公園」を開催。小さな子どもや障害のある方も、映画を楽しんでもらおうと企画し、日中は防災体験や移動動物園、子ども縁日、夜は子供たちにも人気の映画「怪盗グルー」を上映し、公園での楽しい一日を提供した。



来場者数約5,000人

Update 秋の公園フェスティバル「スポーツイベント」開催

10月、秋の公園フェスティバルを開催。「SDGs Fes」では、公園の生きもの多様性を伝えるブースを出展。同日に、運動機会の提供を目的とした「パークアウトドアフェスタ」を初開催。キックターゲットやモルック体験など親子で気軽に参加できると好評を得た。

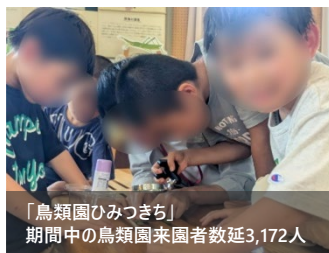


「パークアウトドアフェスタ」来園者数約400人

生物多様性を学ぶ「鳥類園ひみつきち」・「特別展示(昆虫展、シギ・チドリ展、カモ展)」

Update 夏休み「鳥類園ひみつきち」

夏休み延37日間、子どもたちに人気の高い「ひみつきち」を開催。専門スタッフによる「虫さがし探検ツアー」や、カニ類や水生昆虫などの生態展示などを充実させ学びを応援。



「鳥類園ひみつきち」
期間中の鳥類園来園者数延3,172人



NEW 年3回の特別展示で学びを充実

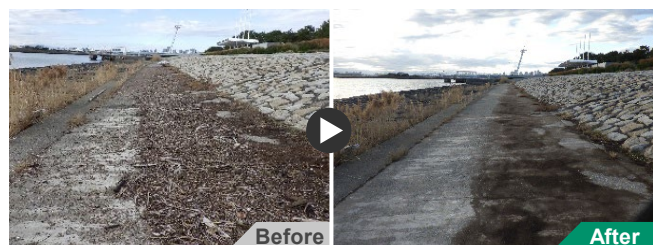
夏には子どもたちに大人気の「昆虫展」、秋冬には観鳥のシーズンに合わせた「シギ・チドリ展」「カモ展」を実施。パネルや標本を用意し、「これまでとは違う情報が得られた」と好評だった。



新規開園地をより安全により快適に

NEW 今年度開園 海に面した護岸(約2km、3.75ha)を安全に

今年度より開園となった護岸は、親水を楽しむ場として人気がある一方で、海からの漂流物の堆積や、コケで足元を滑らせて怪我をする利用者の多い箇所でもある。特別清掃や看板の新設を行い、より安全に快適に親水を楽しめるよう図った。





武蔵野中央公園

戦後80年の節目に後世に残したい
歴史的に価値のある公園



所在地：武蔵野市／開園面積：11.24ha

参加者数が昨年度比2.3倍に増加！最新技術も活用した歴史ガイドツアー

NEW 最新AR技術で歴史を再現

都の「キングサーモンプロジェクト」を活用してXRコンテンツを新規開発し、現存しない当時の**軍需工場を3Dで再現**。地域の子も達の意見を基に子どもバージョンのコンテンツも作成。さらに、告知動画を作成し、配信することで、**若い世代の利用を促進した**。



操作方法のチラシ



イメージ動画と告知動画2次元コード



ARガイドの様子

Update 地域の協力による歴史ガイド

戦後80年の節目に、クイズラリーと地域の歴史専門家によるガイドの2部構成で「4つの公園をめぐる歴史ガイドツアー」を開催。歴史専門家のガイドでは、**近隣の寺院が保管する銃弾、ヘルメットなどを借用して紹介**。好評により開催日を追加し、**全6回実施**。**4公園で昨年度の約2.3倍となる555人が参加**し、公園の歴史を広く周知した。



左)
歴史専門家の解説を聞きながら、東園へ移動する参加者



右)
ヘルメットを
手に取る参加者

ユニバーサルスポーツの普及啓発

NEW 発生材を活用したモルックの利用促進

初めて年間6戦のモルック選手権を開催。スタンプカードを発行し、全6戦の成績による表彰を実施。125人参加。さらに、11月には地域のお祭りにモルック体験コーナーを出展。115人参加。年間を通じたモルック選手権や地域との連携により、**地域住民にユニバーサルスポーツを知り、健康増進につながる機会を提供した**。



左) 親子でモルックを楽しむ様子



右) 発生材を活用して職員が作ったモルック

生物多様性の学習機会を提供

Update 自然観察会の実施

2年前から近隣の子ども達と設置・維持してきたエコスタック（落葉溜め）を活用した**自然観察会**を3回開催。8月に、昼はエコスタックを掘り返して出てきた幼虫を、夜はセミの羽化を観察。10月に、自然観察指導員によるガイドツアーを実施。**日頃の保全活動が実を結び、多様な生き物に出会える公園としての魅力を伝えた**。



9人参加
夜の自然観察会の様子



12人参加
講師による有料ガイド



近隣住民を巻き込む新たな取組で防災力を強化

防災
事業

Update 参加型施設点検体験会の定期開催

昨年度試験的に実施した防災設備や遊具の点検体験会を年間を通して13回開催。延べ79人参加。石灰でHのマークを引くヘリポートの設営や災害ベンダーを実際に動かす体験等の提供により、「自動販売機にこんな機能があるのは知らなかった。」「防災設備が沢山あるのを初めて知った。」などの声があった。防災公園の施設や役割、遊具の安全をPRできた。

主な内容

- 7月パーゴラ設営 6人
- 8月ヘリ照明試験点検 7人
- 11月ヘリポート設営 20人
- 12月かまどベンチ点検 5人
- 1月災害ベンダー操作 7人
- 5月他全8回遊具点検 34人



ヘリポート設置 (11月)



かまどベンチ設置 (12月)



災害ベンダー操作 (1月)



遊具の下も点検 (5月他)

NEW 武蔵野市と取り組む地域防災

武蔵野市が初開催した避難所開設訓練に協力し、消防署や防災推進委員等の10団体の参加者とともに、避難所開設の手順をシミュレーションしながら確認した。訓練後の振りかえりでは、参加者に対し、ペット同伴の避難方法や災害用トイレの設営などについて、これまでの公園での取組を踏まえてアドバイスを行った。さらに、今後の訓練において、公園から避難所への誘導を盛り込むことを検討することになるなど、災害時の連携強化につながった。



ペット同伴の避難者の受入を訓練

地域連携で盛り上げたガーデンショー

Update 新規媒体を開拓してイベントをPR

事前に地域の子供達やボランティアと花壇を整備。HP、X (旧Twitter)、園内掲示板に加え、地元ローカルラジオ番組への出演、新聞の地域版やフリーペーパー、市報への情報掲載など、広報を強化。遠方からの来園も含め、2日間で82人がスワッグづくりなど5つのプログラムに参加し、公園の持つ自然の魅力を体感した。



広報記事の一例



上) スワッグ作りを楽しむ参加者

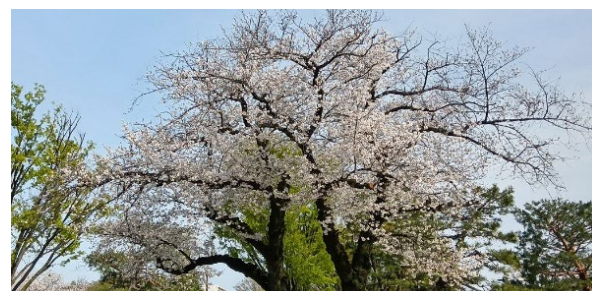


左) 整備した花壇で公園キャラクター「むさちゅん」を探せ!」のミニゲームを実施

都工事への協力

Update 来園者の安全性・快適性の確保

都の石神井川上流地下調節池工事では、準備工事である樹木移植工事の事前打合せ、工事中の調整事項、来園者への安全確保、維持管理業務の調整等、工事が順調に進むよう協力した。また、来園者が多くなる桜花期は工事の工程を変更するよう働きかけ、支障なくお花見を楽しんでいただくことができた。



上) お花見を楽しむ利用者



右) 早朝の工事用重機搬入



府中の森公園

地域や地元住民で連携し
子どもも大人も笑顔になれる公園



所在地：府中市／開園面積：17.1ha

毎月27日は「にじーなの日」、地域の大人と子どもと一緒に遊ぶ日を定期開催！

NEW パークミーティングの意見反映「気軽に参加できるイベントが、決まった日にあると嬉しい！」

昨年度実施したパークミーティングでの意見を反映し、誰もが遊べる児童遊具広場「にじいろ広場」を活用したイベントの定期開催に取り組んだ。「にじいろ広場」のイメージキャラクター「にじーな」にちなみ、毎月27日を「にじーなの日」として、地域のNPO、ボランティアの協力によるイベントを実施。4月27日に「にじーなの日」を告知、5月から3月まで、合計11回開催し、延べ約1,000人の親子が参加した。初回、5月の参加者は30人程だったが、毎月実施することにより、その認知度も向上し、10月以降は平日でも毎回100人前後の参加者が楽しむイベントとなり、「にじいろ広場」を多くの方に普及啓発した。また、本年も2月にパークミーティングを開催し、20団体が参加し活発な意見交換を行った。



7月「紙コップで動物の声をだそう！」



9月「動物のおりがみをつくろう！」



10月「等身大の絵をかくてみよう！」

NEW 毎月の「にじーなシール」でイベントを周知

「にじーな」をデザインしたイラストレーターかぶらぎみなこ氏の協力により、月ごとにデザインが変わる「にじーなシール」を作成、参加した子どもたちに台紙と一緒に配布した。9月以降、「来月は何をするのですか？」と「にじーなの日」を楽しみに来園する子どもが現れるようになり、リピーター獲得につながった。



にじーなシールと台紙

NEW 「にじーな半纏」でイベント気分Up！

「にじーなの日」を盛り上げるため、お祭り文化のある府中にふさわしい「にじーな半纏」を作った。職員、NPO、ボランティアの全員が「にじーな半纏」を着ることで、来園者に一目で「にじーなの日」であることを知ってもらうとともに、一体感のある会場の雰囲気醸成した。



にじーな半纏



「にじいろ広場」の子どもたちと一緒に作った「にじいろ広場トリックアート」

NEW 自転車通行の安全性向上と新たな魅力の創出

利用者と自転車の衝突事故防止のため、「にじいろ広場」内を通る園路に注意喚起のトリックアートを作成した。作成にあたり、かぶらぎみなこ氏の協力を得て、子どもたちからアイデアを募るワークショップを2回開催。みんなで作ったトリックアートにより、園路の安全性が向上するとともに、フォトスポットにもなる新たな名所が誕生した。



子どもたちからのアイデア募集



〈テーマ〉

(上) メルヘン

(下) 冒険



完成した2種類のトリックアート

地域の子育て支援団体との連携強化により広報力Up！

NEW 地域の子育て支援団体の会議に参加

府中市の子育て支援の52団体参加の「ふちゅう子育て会議」で、毎月公園の取組を紹介。さらに、年に1度の府中市のイベント「ひろげよう！子育てひろばのわ」では、パネル展示で「にじいろ広場」をPR。



512人来場

にじいろ広場のパネル展示（会場：ルミエール府中）

NEW 地域ローカルFMで公園を紹介

地域の団体との交流から、府中市のローカルFMラジオに出演。府中の森公園の歴史とイベント告知をした。後日、来園者から管理所窓口に「FMラジオを聴いて来ました」とお声がけいただいた。



ローカルFMに出演

子どもを対象とした防災の取組

防災事業

Update 近隣小・中学校と連携した防災訓練

毎年実施している近隣自治会の防災訓練に加え、今年度は新たに隣接する府中市立浅間中学校の防災スクール、府中市立第二小学校の地域防災訓練にも公園職員が参加。防災トイレの組立等を行い、若い世代に防災の大切さを伝える貴重な機会を創出した。



199人参加

中学校防災スクール



2,125人参加

小学校地域防災訓練

次世代へ語り継ぐ戦争の記憶

Update 府中の森公園の戦争歴史

戦後80年特別企画「4つの公園をめぐる歴史ガイドツアー」を開催し、米軍時代に使用されていた消火栓を紹介した。職員出演の告知動画やチラシの作成、SNSの活用等、広い世代に向けた広報により、参加者は4公園で延べ555人で、昨年度の約2.3倍となった。



米軍基地時代の消火栓



武蔵野の森公園

25周年を迎え
公園の歴史を後世に伝承する公園



所在地：府中市、調布市、三鷹市／開園面積：38.57ha

開園25周年記念イベントを多数開催！地域に親しまれ、愛される公園に

NEW 30周年に向けてもっと愛される公園へ

通年でコミュニケーションボードを設置し、公園での思い出やメッセージを寄せていただいた。公園の歴史をまとめた冊子、園内の見どころや動植物をデザインした一筆箋を新規作成して配布したほか、緑と水の市民カレッジの協力によるガイドツアーを行うなど、地域に育まれてきた公園の多様な魅力を伝えた。



コミュニケーションボードに参加される利用者



公園の歴史冊子

NEW むさ森フェスタでモルック大会を初開催！

1月には「ありがとう！25周年」と題して、多摩地域に受け継がれる無形文化財「八王子車人形」の公演など、地域で活動する団体の協力により、「むさ森フェスタ」を開催。発生材を活用し、職員が手作りしたモルックで、初めての大会を実施した。4団体13人が参加、ユニバーサルスポーツという新たな楽しみを提供した。



八王子車人形



モルック大会の様子

園内に残る戦争遺跡を活用した戦後80年特別企画

Update 多彩な広報展開により、幅広い世代に公園の歴史的価値を伝えるガイドツアー

戦後80年の節目にあたり、「4つの公園をめぐる歴史ガイドツアー」を開催。昨年度の内容をブラッシュアップし、7～9月に4公園をめぐるクイズラリー、10月に歴史専門家によるガイドツアーを開催。また、職員が戦争遺跡とイベントを紹介する動画やチラシを作成、SNSの積極的な活用など、若年層や新規来園者をターゲットとした広報を展開。協会独自のプレスツアーを開催し、5社が記事として掲載した。4公園で昨年度比2.3倍の延べ555人の参加があり、公園に残る貴重な戦争遺跡や公園の歴史的価値について幅広く普及啓発することができた。



座学を聴講する参加者



出土したプロペラを解説する様子



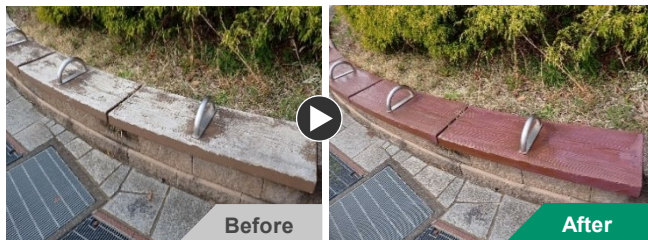
掩体壕大沢2号内部見学の様子



計画的な補修による公園の美観・景観の回復

Update ベンチをきれいに、使いやすく

園内全域の154基のベンチの補修を計画的に実施。腐食部の補修、ボルトの締め直し等を行い、塗装は3度塗りした。ベンチの美観を向上させ、来園者に安全で快適な施設利用を提供できた。



Update 故郷を偲ぶパークビュースポットの回復

全国の名石を集めた「ふるさとの丘」を開園当初の姿に戻すため、京都府など5府県に働きかけ、4府県の説明版の文言の修正、欠損していた静岡県溶岩岩の再設置を実現した。



説明板の修正



再設置した溶岩岩

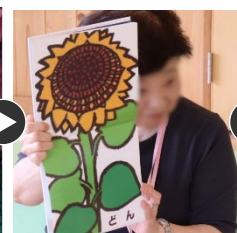
2年目を迎えた「絵本と歌の庭」と生き物と触れ合える生態展示

Update 体験を通じて、公園の豊かな緑と多様なチョウの生育環境を育む

のびのび親子館でのイベントと併せ、「絵本と歌の庭」でヒマワリの種まき、ボランティアによるヒマワリの絵本の読み聞かせ、苗植え、開花までの体験を提供した。参加した57人の子供たちは何度も「庭」を見に来るなど、年間を通じた生物多様性保全の取組となった。



ヒマワリの種まき



ヒマワリの絵本の読み聞かせ



ヒマワリの苗植え



ヒマワリ開花

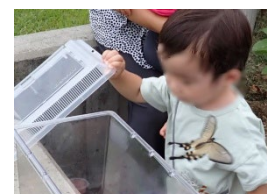
さらに、サービスセンターでは、キアゲハ、ナミアゲハ、ジャコウアゲハ、ルリタテハの幼虫、蛹、成虫までを生態展示した。成虫になったチョウを子ども達と一緒に放蝶すると、親子から大きな歓声が上がった。



チョウの幼虫を触る子ども達



成虫になったチョウを肩にのせる



放蝶した瞬間の様子

地域とともに取り組むインクルーシブ防災の普及啓発

防災
事業

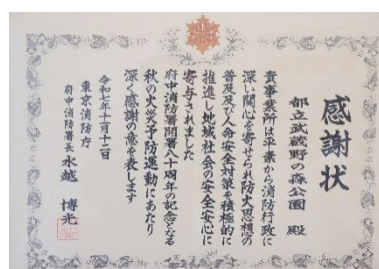
Update 近隣支援学校への訓練プログラム提供



災害用トイレ設営訓練の様子

9月に府中けやきの森学園の総合防災訓練に協力。防災公園グループの職員24人が、それぞれの障害に配慮した訓練プログラムを実施し、近隣教育施設との信頼関係を強化した。

NEW 府中消防署より感謝状を授与される



地域連携での防災訓練やインクルーシブ防災への取組が評価され、11月に府中消防署長より感謝状を授与された。



小金井公園

まちと人と自然をつなぐ
武蔵野の大公園



所在地：小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市
／開園面積：80.49ha

地域と考え、共につくる。公園を基点としたエリアマネジメントによる豊かな地域づくり

NEW 暑くても、遊べる夏を！ 地域連携で「夏祭り」と「水遊び」を実現

パークミーティングでの「酷暑でも外で遊べるイベントを」という声をきっかけに、「夏祭り（7月）」と「水遊び（9月）」を初開催した。「夏祭り」では夕刻から地域事業者とともに縁日や打ち水などの夏らしい遊びを展開した。「水遊び」では大きな動物型シャワー等により、水景施設のない小金井公園で涼が取れると大好評を博した。どちらも500人以上が参加し、地域と共に夏の楽しみ方を広げた。



夏祭りでのランタンづくりワークショップ



水遊びで大はしゃぎの子ども達

NEW もっと身近に音楽を！ 企業連携で「あおぞら音楽会」を開催

地元企業の宮地楽器と連携し「みんなのあおぞら音楽会」を9月に初開催した。小金井公園の開放的な空間と、宮地楽器の多彩なプログラムを活かし、約500人に屋外でのエレクトーンコンサートや楽器体験を楽しむ機会を提供した。親子連れから通りすがりの人まで音楽に夢中となった。コンサートホールを飛び出し、音楽が暮らしに溶け込む、文化的に豊かな地域づくりを公園から発信した。



ファミリーが楽しめる楽曲満載のコンサート



コンサート後は楽器体験

「桜の名所」を未来へ継承する、安全管理と着実な苗木育成・補植

Update 老ソメイヨシノの保全と風格ある景観の継承

たてもんの園前広場の老木となったソメイヨシノについて、安全確保と景観保全を図るため、東京都および桜守の会と連携して保全に取り組んだ。樹木診断の結果を基に対処方針と作業工程を策定し、剪定等を実施して落枝・倒木リスクを低減した。また今回の診断を基準とした今後の景観維持のPDCAサイクルを整えることができた。



枝の状況を確認しながらの丁寧な剪定

Update 苗木育成と補植によるサクラの景観づくり

江戸時代から受け継がれてきた貴重なサクラの台木（玉川上山桜、江戸彼岸等）を活用し、伝統的な接ぎ木技術により、歴史と文化を継承する多様な品種の苗木づくりを行った。今年度はその中から18種類25本を選定し、サービスセンター及び東京都、桜守の会の意向を調整して補植を行った。これにより、将来も多様なサクラが楽しめる持続的な景観づくりが進んだ。



将来のサクラの景観を見据えた補植



公園のポテンシャルを発揮させ感動を提供する新たなイベントの企画と実現

NEW SLが躍動し、みんなの顔が輝いた！「SLライトアップ」

ボランティア「汽車の会」と協働し、SLのライトアップイベントを11月に開催した。ヘッドライトと客車車内灯を点灯し、煙突から蒸気が噴出する様子を再現して、今にも動き出しそうな躍動感ある姿を初めて披露した。**幻想的な風景が生み出されたSL展示場は、カメラを構える地域住民や愛好家など約500人で賑わい、人々をひきつける魅力あるスポットとして、ポテンシャルを大いに発揮した。**



SL展示場のポテンシャルを存分に発揮

NEW いつもの公園でアートと出会う。感動と発見の機会を提供

公園が人々のQOL向上に寄与するための新たな切り口を模索する職員と、園内の切り株を題材に作品を制作した芸術家との出会いから生まれた**「林の中からはじまるアート展」**を初開催した（2/28-3/22）。**「いこいの広場」の広大さを活かし、春の木立の中に様々な作家の21作品が展示された。**会期中いつでも鑑賞でき、あらゆる生活スタイルの方々へ感動と発見の機会を提供した。



いつもの散歩道でアートに出会い心が弾む

公園が地域住民・自治体をつないで実現する地域の防災力向上

防災
事業

NEW 開かれた関係で地域の防災力向上を目指す

公園が位置する4市の防災担当者と隣接の自治会へ働きかけ、初の防災連絡会が実現した。**この防災連絡会により公園・各市・住民の協力関係を構築するための合同訓練が実現し、災害時における公園の具体的役割の理解と、防災設備の使用法の習得を通じ、公園と地域の防災力向上へつなげた。**



かまどベンチ使用訓練



マンホールトイレ設置訓練

NEW 楽しみながら助け合いを知る防災フェスタ

12月開催の防災フェスタに小金井市社会福祉協議会と企業1社が初参画した（計15社）。**応急救命や車いす利用者支援、防災設備の組立体験等をめぐるスタンプラリーを実施し、3,800人の参加者へ実践的な共助の知識・技術を伝え、防災公園としての役割を果たすことができた。**



車椅子の苦勞を知る

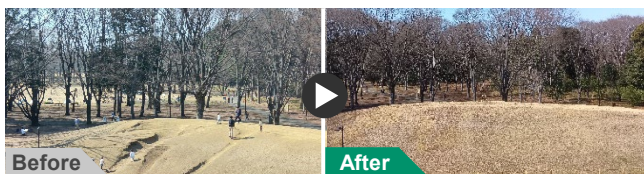


大人も子供も応急救命を学ぶ

長期的な視点で進める花いっぱいの景観づくり

Update 遅咲きの桜による憩いのスポット整備

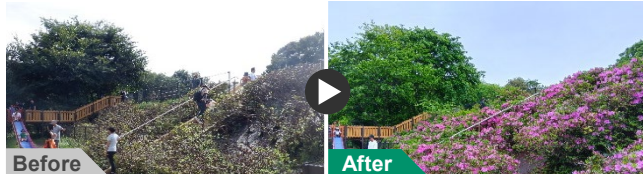
自転車の走行等で起伏ができてしまっていた丘を憩いのスポットになるよう整備を行った。丘を滑らかに整形し芝を養生するとともに、**ソメイヨシノとツツジの間の「花の端境期」を補う遅咲きのサトザクラ3品種（嵐山・白雪・白妙）を植栽することで、春に途切れなく花が咲く公園づくりを進めることができた。**



園内をよく観察して課題を発見し、未来に向けた改良を実施

Update ツツジの花つきを回復させるための環境改善

「わんぱく山」から「ソリゲレンデ」、「つつじ山」にかけてのツツジの群落は、樹高が高くなるにつれて開花が不揃いとなっていた。満開の景観を目指し、令和5年度から切り詰め剪定等を行い、**今年度も施肥と繁茂するササ等の除去を行った。今年度は開花のボリュームが増し、鮮やかなツツジの景観を提供することができた。**



地道な取組によりツツジが鮮やかに開花



東村山中央公園

豊かな生物多様性環境を持つ
子ども達がすくすく育つ公園



所在地：東村山市／開園面積：12.10ha

地域連携による防災フェスタの開催！ 楽しく防災を学ぶ機会を提供

防災
事業

NEW 「みんなdeあそぼうさい」を初開催

11月に「防災フェスタ」を開催。各ブースをめぐるスタンプラリー、防災グッズを釣る防災フィッシング、防災ワークショップ、少量の燃料で強火力のロケットストーブの実演など、防災に関する20のプログラムを実施した。近隣の高校生、ボランティア、地域住民の協力により、地域の子どもたちや高齢者など**1,300人以上の方に楽しんでいただき、防災について普及啓発につなげた。**



地域連携による防災ワークショップ



ロケットストーブの実演

Update 140人もの「こども防災公園博士」が誕生！

昨年度は夏季に開催した「キッズ防災」を、猛暑を避け、市主催の「春の緑の祭典」に併せて4月に開催。「防災クイズ」では、各ポイントに職員を配置し、防災公園の機能を伝え、コンプリートした子どもを防災公園博士に認定。その他「防災ワークショップ」や消防車展示により、親子の参加者が大幅に増加。**前年度比203%となる140人が参加し、防災に関する知識を楽しく学ぶ機会を提供した。**



子ども防災公園博士認定



防災クイズで普及啓発

地域や都事業と連携！ 豊かな生物多様性環境の普及啓発

Update 自然観察会を通年開催

地域の自然観察指導員の協力により、**年6回自然観察会を実施**。草花や樹木、実、子どもが好きな昆虫をテーマとして、生き物と直接触れ合う機会を提供。さらに、**多摩六都科学館の自然観察会に協力し、生物多様性環境の普及啓発を促進した。**



延べ108人参加

土の中にある昆虫を発見

Update 初心者向け野鳥観察会

園内で40年以上野鳥観察を続ける日本野鳥の会会員を講師として、1月に野鳥観察会を実施。デジタルサイネージを活用した解説、レーザーポインタの使用などにより、**初心者でも野鳥を見られるように工夫し、「分かりやすかった。」と好評だった。**



18人参加

モズがネズミを捕食する貴重な場面を観察

NEW 都事業への協力

都の生物多様性モニタリング事業の一環として、**1月に巣箱づくりイベントに協力**。事前に巣箱の設置箇所の選定や会場の手配、当日の安全管理等を行った。参加者に園内で見られる野鳥やツミの営巣跡を紹介し、公園の豊かな環境をPR。



15人参加

作成した巣箱の設置



パークミーティング参加団体と連携！親子延べ1,500人超に遊びの場を提供

Update むかし遊びで世代間交流

5月に東村山市のボランティア「あそび塾」と協働で、現代の子どもたちが普段遊ぶ機会の少ない「むかし遊び」の場を提供。コマ回し、ゴム鉄砲、お手玉、あやとり、けん玉などの懐かしい遊びを、子どもたちに楽しみながら体験してもらった。



コマ回しを楽しむ子どもたち

Update 子どもが自由に走れる場

6月に東村山市子ども教育支援課・児童課と連携し、「あそぼう会」を開催。当園のほか、富士見児童館、富士見公民館を会場に、シャボン玉あそび等の体を動かして楽しむプログラムを提供。親子で楽しく遊ぶ機会を提供した。



シャボン玉あそび

Update 冒険遊び場の拡大利用

6月にボランティア団体「冒険遊び場」と連携してイベントを実施。また、中央広場東端で工作コーナー、富士見公民館でボール遊びやおはなし会など14の「あそび」を開催。多彩なプログラムを、地域の子ども達に提供し、公園の魅力を創出した。



冒険遊び場

大好評！菊花展を小菊盆栽の見ごろに合わせて開催

Update 丹精込めた盆栽の展示

ボランティア「小菊の会」の協力により、「菊花展」を開催。今年度は盆栽の開花時期を見直し11月中旬に実施したことで、1,022人の来園者につながった。古来から愛される菊と室町文化の盆栽が合体した江戸園芸「小菊盆栽」を楽しんでいただく機会を創出した。



小菊盆栽の展示



ボランティアの案内

近隣高校との連携による環境向上

Update 地域で学ぶ高校生との協働作業

近隣高校の授業の一環で、フェンスのつる取りによる美化、落ち葉掃きによる希少種保護、小石拾いによる遊具広場の安全性向上の取組を行った。高校生に社会貢献の場を提供し、高校と連携を強化した。



西武線沿線フェンスのツル取り



東樹林の落ち葉掃き



遊具広場の小石拾い

アニメでの地域振興アゲイン

Update 「女子高生の無駄づかい」スタンプラリー

夏休み期間中、アニメの舞台となった園内及び近隣スポットをめぐるスタンプラリーを実施。参加者にはアニメと実際の景色を比較しながら園内を散策していただき、コンプリート賞として特製アクリルスタンドを贈呈した。遠方から来たアニメファンや散策中にイベントを知った方など、240人に参加いただいた。アニメという切り口から新たな公園の魅力を発信し、地域の活性化に寄与することができた。



スタンディで記念撮影



特製アクリルスタンド



東大和南公園

地域の魅力をみんなで発信！
戦争遺跡と運動広場のある公園



所在地：東大和市／開園面積：9.87ha

地域のアイデア・意見を取り入れて、みんなで作るみなみこうえん！

Update 地域のおすすめスポットを取り入れたデジタル版スタンプラリー

公園周辺の名所や自然観察ポイントを厳選してめぐる「水と緑の健康ウォークデジタル版スタンプラリー」を実施。前年度の「みなみこうえん祭」で実施した「おすすめスポットアンケート」から新たに3箇所のポイントを追加し、オリジナルの景形で参加意欲を醸成。口コミやX（旧Twitter）で評判が広がり、**前回比28.3倍の1,357人が参加**。地域の魅力に触れ、**楽しみながら健康増進できる機会を提供した**。



アプリで各ポイントを分かりやすく紹介



クリアした参加者にはオリジナルグッズ贈呈



X（旧Twitter）でも好評

地域とつながりを活かした広報で4公園を主導！「歴史ガイドツアー」開催

NEW 多摩都市モノレール 全19駅でチラシを配布

ポスター掲示、市報・情報誌・SNSへの掲載、**多摩都市モノレール全19駅・市内の図書館・小学校等30箇所でチラシを4,800枚配布**し、情報発信を強化した。



駅のチラシラックで配架

NEW ツアーデスク設置による 戦後80年普及啓発

ツアーデスクを新設し、職員が直接説明、資料配布をうことで、目的外利用の来園者に対しても公園の歴史を知る場を提供した。



参加を呼びかける様子

Update 市との連携による 歴史ガイドの開催

東大和市と市のボランティア団体の協力で、**旧変電所や公園の歴史を伝えるガイドを計8回実施**。広報の効果により、4公園全体で**昨年度比2.3倍の555人参加**。



歴史ガイドツアーの様子



地域と一体！初めての遊びプログラムで公園の魅力アップ

NEW 公園フェスタを初開催！みんな大好き「みなみこうえん」

雨天中止とした「みなみこうえん祭」の代替イベントとして、1月に「公園フェスタ」を初めて開催。地域で活躍する新たな団体を誘致したダンスステージショーやダンス体験、クラフト、お正月あそび等、親子で楽しめるプログラムを提供し、公園への愛着を醸成した。



地元ブレインチャンピオンとバトル



親子でワークショップを楽しむ参加者



みんなで流行曲の振付に挑戦

パークミーティングを踏まえた防災訓練

防災
事業

Update 地域の要望に応えた 携帯トイレ設置訓練

防災連絡協議会で要望のあった携帯トイレの設置訓練を実施。発災時の対応を地域住民に普及啓発した。



地域連携防災訓練の様子

Update 近隣官公庁と連携した キッズ防災デー

展示車や消火器体験、防災クラフト等、楽しく防災を学ぶ場を提供でき、ファミリー層を中心に326人が参加した。



子ども達が初期消火を体験

ボランティア講習会

Update ボランティアの 花壇管理技術向上

パークミーティングでの意見を受け、花壇ボランティアのスキルアップ講習会を初開催。公園にふさわしい花壇づくりにつながった。



スキルアップ講習会の様子

地域と共に子育て世代を応援

NEW 連携先の新規開拓

地元フットボールクラブに働きかけ、レクリエーションサッカーを初開催。新たなスポーツプログラムを地域の子どもたちに提供した。



元女子W杯出場選手によるサッカー教室

Update リトルキッズコミュニティ拡大

近隣施設と連携し、未就学児子育て支援イベントを年6回開催。木の实を使った遊びが親子に喜ばれた。昨年度比1.5倍。



イベントに参加する親子

都の工事への協力

NEW 運動広場改修工事

都との調整や31団体への運動広場利用中止の通知、HP・園内掲示等で確実に周知することで、混乱なく理解を得た。



園路脇19箇所での注意喚起



秋留台公園

東欧風のバラ園と田園風景を誇る
魅力溢れるスポーツ公園



所在地：あきる野市／開園面積：11.84ha

「ローズフェスタ2025春・秋」新たな取組による公園の賑わい創出

NEW 来園者数を増やす新たな取組

バラの見ごろである5月と10月に「ローズフェスタ2025春・秋」を開催。来園者を増やす新たな取組として、平日2日間限定で、職員お手製「バラのポップリ」を**合計120人にプレゼントし、喜んでいただいた。**また、新たに**JR拝島駅へのポスター掲示や東京観光情報センター多摩へのパンフレット配架**、各種WebサイトやSNSでの告知、「あきる野便り」への掲載など**様々な媒体に働きかけ、広報を強化した。**



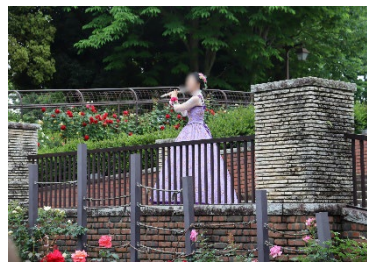
ご来園プレゼントの様子



ポスター掲出の一例

Update 大人気のフルーツ演奏会

人気のフルーツ演奏会には、あきる野市在住で、国内のみならず海外でも活躍するフルーツ奏者が出演。バラ園の中を移動しながら、それぞれのバラの特徴や名前にちなんだ曲を演奏した。会場内はフルートの音色とバラの香り、満開のバラの美しさで別世界のような心地よい空間となった。イベント開催期間中の来園者数は**前年度比110.2%約28,000人に季節のバラをお楽しみいただいた。**



バラ園内での演奏の様子



フルーツ奏者から
バラポップリのプレゼント

関係機関との連携により、地域防災力向上を牽引

防災
事業

NEW 東京都総合防災訓練への協力

日の出町グラウンドで開催された東京都総合防災訓練では、防災介助士の資格を持つ職員による車いすの誘導訓練等を実施し、**ブース参加者113人と大変盛況。**



車いす誘導訓練の様子

Update インクルーシブ地域連携防災訓練

東京消防庁秋川消防署の協力により実施。**近隣の幼稚園児約100人**を誘致し、様々な訓練を通じて、**地域の子供達の防災への関心を高めることができた。**



園児の消火訓練の様子

NEW 救急行政への貢献による表彰

陸上競技場でドクターヘリを受け入れ（年間30件）、救急行政に貢献したことにより、秋川消防署長より**9月9日（救急の日）に感謝状を授与された。**



感謝状授与の様子

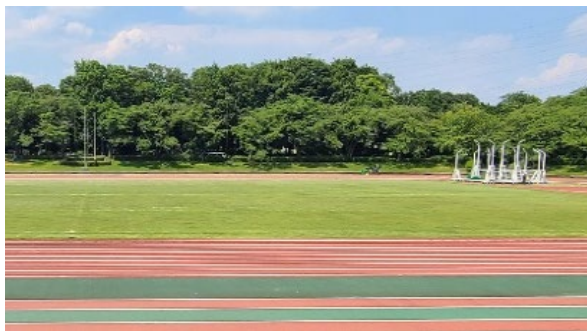


丁寧な芝生管理により、利用者が快適に使える良好な芝生環境を維持

Update 職員によるきめ細やかな作業

秋留台公園のシンボルの第3種公認の陸上競技場は、中央芝生部分を部分を陸上、サッカーなどに利用される。快適な利用を提供するために、職員が協力し、年8回施肥作業を実施した。これらの作業により緑が鮮やかなふかふかな芝生を維持し、「プレイしやすい」と利用者に喜ばれた。

年間計画を見直すなど、次年度以降も継続してできるような仕組みにもつなげた。



陸上競技場の様子



エアレーション作業の様子



施肥作業の様子

サクラ保全活動の継続による景観維持

Update 継続的な害虫駆除

昨年度に引き続き、クビアカツヤカミキリの駆除作業を実施。今年度は成虫97匹駆除（前年度126匹）、幼虫10匹駆除（前年度92匹）と大きく減らし、公園を代表するサクラ景観を保全した。



駆除活動の様子

ボランティア活動で公園の美化推進

Update 野草愛好会の活動

野草愛好会ボランティアにより、毎月野草園の手入れを実施。地域住民との協働により、地域と一体となった公園づくりを行うことができ、良好な関係を築くことができた。



野草園での作業の様子

都の工事への協力により、安心・安全な公園環境の維持

NEW 利用者の立場に立った提案

老朽化していたトイレがユニバーサル仕様に建替えられることになったため、子ども連れや車いす利用の来園者が使いやすいよう、都や工事業者と懸念点の洗い出しやスケジュール調整を行った。



新設されたユニバーサルトイレ

NEW 利用者への分かりやすい案内

展望台バリアフリー工事に伴い、園内閉鎖箇所の案内や来園者からの問合せ対応、車両通行時の誘導などを行った。来園者の安全確保を図り、公園管理者としての役割を果たした。



工事のため閉鎖されている展望台の様子